

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	2	後期	必修	はい	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の精神習得の出口の部分を担当しているため、キリスト教学Ⅰの聖書の学びから発展させ、幅の広い教養を身につけるため、多岐に渡る内容のキリスト教芸術と文学に触れ、視野を広げる授業展開を行った。また、授業以外のチャペルの参加や、教会訪問なども評価に取り入れ、授業外でキリスト教に触れる体験の機会を設けた。 ②毎回の授業中に記入するポートフォリオでの学びの確認だけでなく、チャペルポートフォリオを導入し、毎回のチャペルのまとめを記入するようにした。出席率でしか評価できなかったチャペルでの体験的な学びを、総合的に把握することができるようになった。 ③後半で行うグループ発表の機会は、学生の関心にあわせて展開し、様々な角度からキリスト教について学びあう事ができた。 ④学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、2年間のキリスト教の学びの集大成をひとつの文章としてまとめる作業を行った。これによって、学生が聖書やキリスト教教育の学びから何をうけとり、卒業していくのが良く見えるようになった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては3.7ポイントであった。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの出席率約75%以上とコメントカードの内容、教会訪問の出席率約90%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたことから、全体をとおして教育目標が達成されたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「キリスト教学Ⅰ」の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであるが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察し、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、昨年同様学生たちが意欲的に取り組み、講義だけでなく、グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度より、チャペルポートフォリオを導入したことは、チャペル出席へのサポートとなった。チャペル出席はキャンパスライフにもあるように、1年間をとおして3分の2の出席を必要としている。キリスト教学がない2年生前期のチャペル出席について検討が必要である。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.8であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の集大成として学ぶ科目であるが、キリスト教学Ⅰを発展的に展開していく上で、Ⅰでの学びが重要である。Ⅰの復習もⅡでの講義に加えつつ、学生が中心となて行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。授業の最後に記入するポートフォリオやチャペル出席・教会訪問に加え、チャペルポートフォリオを導入し、さらに関心あるテーマについてグループで調査・発表し、最後に「感恩奉仕」とは自分にとってどのような意味を持つか、自分自身の内面の変化を洞察していく作業をおこなったため、前年度より、内容が深まったと言えよう。引き続き、学生の興味関心を引き出し、「感恩奉仕」について日常的に考えることができるよう促すことが課題である。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	末成 妙子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こどものうたあそび	1	後期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「うたあそび」は幼児の成長に重要な意味を持っている。信頼できる身近な人を懸命に見たり、声を聴こうと感覚器官を働かせる。そして手足を動かし、声を出して、その時に表現できる方法で反応し、積極的に模倣しようとする。歌はこどもの感性を刺激し、表現を促し、他者と感情を共有する経験を作る。保育所や幼稚園では季節や行事などの幼児歌曲を声を合わせて歌い楽しみ、「あそびうた」ではだれかと一緒にグループを作って遊ぶなど人とのかわりを促す。関わる中で楽しみを共有し、役割を担い、社会性を養う。そうした場面で、保育者を目指す学生には、こどもたちにその時々になさわしい歌唱教材を選ぶ確かな目と、それを可能にする豊富なレパートリーを持つことができるように、同時に歌の魅力を子どもにしっかり伝えられる安定した歌う力を養うことを重点に教授した。 ②受講動機は必修科目である77.6%、資格習得に必要64.5%と「うたあそび」に特に関心が高いという積極な動機ではない学生が多かったが、毎回のテーマに沿ったたくさんのおこもののうたを、実に積極的に練習し、発表し合い、聴き合い、活気のある授業展開になった。シラバスには毎回の中心的な課題曲を提示していたが、毎週それに目を通すというより既習曲の復習をすることを推奨したが、自由記述で「何を練習するかわからず、準備をあまりしなかった」という回答が37パーセントに上っていたのは、徹底が不十分であったと考え、次年度への課題である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①到達度自己評価見ると、特に「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」学生が「かなりそう思う」、「わりにそう思う」を合わせて7割に上ったのは積極的な授業の雰囲気や功を奏し、恥ずかしいとか未熟であるというマイナス思考を払しょくする認め合う雰囲気作りができた成果であると考え。 ②それは授業評価の(4)「話し合う、発表するなどの学生が参加する機会がつくられていた」という項目が4.0という数値にも表れている。 ③一人ひとりで歌う試験のほかに、友達と一緒に、友達の前で一人で、という場面も多く設定したので学生どうしで助言し合うことも行われて、評価基準に不公平感が出てはいけなと考えていたが、「評価基準は明らかであったかの」項目は全員が「まあそう思う」「わりにそう思う」「かなりそう思う」と回答していたので、授業の進め方は適正であったと考える。 ④実際にうたったり遊びを表現するだけでなく、その歌の背景や歴史的な事象を検証する課題を課したが、それでも図書館の利用は、のべ26人に過ぎず、手近なスマホに頼っている実態が浮かび上がった。指導の徹底が課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「うたあそび」は遊びの要素を内包した、歌う活動の総称と考え、幼児歌曲は、こどもにとって聴いたり歌うことそのものが楽しいものであり遊びの要素を含んでいる。そして「あそびうた」とは、身体の動きとルールを伴う歌であり、まさに遊びと言葉と音楽とを切り離すことはできない。つまり幼児歌曲とあそびうたはいずれもあそびの要素を内包した「うたあそび」なのである。この視点から見ると、課題曲の選曲、授業の進め方の両面において本講座はDP、CPの位置づけから検証し、妥当であったと考えられる。自由記述の学習量の評価は概ね望ましいものだったが、(4)「授業の課題以外に学習に取り組んだ」学生がわずか35パーセントだったので、授業の曲からさらに視野を広げて新しい歌に取り組むというところまで学習が進まなかったのは啓発の不足であり、今後の課題である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「自分の意見をまとめ話し合い発表する機会があった」を「わりにそう思う」「かなりそう思う」を合わせると72%になり、充実感を持てた発表ができていたと考えられる。しかし残りの学生が「まあまあそう思う」に回答しているが、自己表現にまだ十分な自信が持てていない表れだと考えられるので、そうした学生がこれからの実習や他の授業での取り組みに対して、保育者として子どもたちの前で明るく表現できるようにさらに支援をしていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	幼児歌曲やあそびうたについて、それぞれの持つ楽しさの要素や子どもの発達とのかかわり、そしてさらに楽しい活動へと発展させる方法を目指して授業を展開した。しかし、子どもの発達の観点から一つの楽曲を乳幼児期の各年齢で継続的に歌い遊ぶことができるように活動の展開例を十分に示す時間的余裕をもつことができなかった。子どもの興味・関心・心身の発達に応じて、様々な表現活動を考えることができるように時間配分に考慮していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	植村 和彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こどものうたと伴奏法Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目の前に配置されている1年次前期「こどものためのピアノⅠ」～2年次前期「こどものうたと伴奏法Ⅰ」までの単位修得状況が様々であることに加え、開講時点で学生が習得しているピアノ演奏技能にも大きな個人差があることを念頭に置いた上で、2年次前期までの学習状況を踏まえつつ、各自の進度や演奏技術の習得状況に合わせた個別指導を行うことの出来る体制を採用している。2年間4期に渡って演奏技能を習得していく段階においてより実践力・応用力を身につけていくことを目的としていることを十分に伝達すると同時に、2年次前期までと同様に週に一度の授業時間内だけでなく翌週の授業までの間に、各自で継続的に反復練習を積み重ねることが必要不可欠であるため、毎回の個別指導終了時に次回の授業までに取り組むべき課題点や履修曲目の目安等について出来るだけ明確に指示するよう心がけている。また、特に開講時点でピアノ実技科目に関する資格取得要件単位を満たしていない学生や、大きな課題に直面したり進度が遅れたりしている学生が精神的に追い詰められることのないよう、意思の疎通をはかりつつ、少しでも前向きに取り組むことの出来るように助言している。 資格取得に関して「こどものためのピアノⅠ」～「こどものうたと伴奏法Ⅱ」の4単位中2単位以上の修得が求められていることを踏まえて、本科目において1単位を修得出来るよう努力し、必ず資格取得要件を満たすことの出来るよう、自らの計画性と展望を持って受講するよう指導している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価を見ると、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値は3.9点であった。また、課題曲の履修状況と期末の実技試験の評価を総合的に振り返ってみると、本科目の単位を修得した61名に関しては概ね標準的レベルに到達したことが窺えたことから、技能表現に関わる目標については、やや達成されたと言えるのではないかと考える。 なお、再試験対象者は0名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は在学中の2年間4期に渡って継続的・段階的に進行していく実技系演習科目の総まとめである。2年次前期までの履修状況は勿論のこと、「教育実習」において各自が実習先から提示される多様な課題曲、また就職試験受験時に求められる演奏実技課題への対策など、学生一人ひとりのニーズに応じた柔軟な対応が出来る体制を整えつつ、受講者全員が個人差はあってもそれぞれ基礎技能や保育現場での応用力を高めていくことが出来ている現状から、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の技能面では大きな個人差があるが、全6名(専任1名、非常勤5名)の教員体制のもと、受講者一人ひとりの進度やニーズに個別に対応しつつ、教育を行っている。既に資格取得要件の2単位を修得済みの受講者に対する課題曲(応用編)の設定に関しても、4期を見据えた科目であるという特性と、実際の保育現場で求められる演奏技能の必要性を踏まえれば妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	2年次前期までの実技科目と同様に学生個人の現状をよく見極めつつ指導に当たる意識を教員間でも共有することが求められる。また、授業時間以外での自主的な予習・復習に関して言えば、実技系の演習科目であるという特性上、ほとんどの学生が多くの時間を充てて取り組んでいるということが、「学習量の評価」の集計結果からも明らかである。保育科の過密な1週間のカリキュラムの中でも効率的な予習・復習を積み重ねていけるように指導・助言していくことが大切であると感じる。 授業の進め方においては、何のためにピアノ演奏技能を高めていく必要があるのか、学生自身が目標を見失ってしまうことのないように、今後控えている就職試験に臨む際や、就職後の保育現場での実践を日々意識・想定しながら継続的に学びを深め、技能を高めていけるように、一方的な実技指導に陥ることなく、引き続き対話を重ねながら進めていくことが重要であると考え。また、複数の教員で担当する科目であるため、グループ間で進行や指導方針等に過大な格差が生じないように十分配慮し、担当教員間で連携を図りながら進めていくことが求められる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ピアノ実技系演習科目の集大成にあたる本科目の位置づけからみて、個人差はありながらも演奏技能・応用力の習得および向上という点においては概ね達成出来たが、上述の授業の進め方や教材設定の在り方においては、引き続き改善の余地があると思われる。また、学生の意見を真摯に受け止め、学生がより意欲的かつ主体的に学ぶことのできる授業環境を整えていくことを目的として、さらなる改善策を模索したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	植村 和彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こどものためのピアノⅡ	1	後期	選択	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期の「こどものためのピアノⅠ」同様に、ピアノ演奏技能の習熟度に大きな個人差があることを念頭に置いた上で、各自の進度や演奏技術の習得状況に合わせた個別指導を行うことの出来る体制を採用している。2年間4期に渡って段階的に演奏技能を習得していくための基礎作りと実際の保育の場面において実践出来るようになることを目的としていることを十分に伝達すると同時に、週に一度の授業時間内だけでなく翌週の授業までの間に、各自で継続的に反復練習を積み重ねることが必要不可欠であるため、毎回の個別指導終了時に次回の授業までに取り組むべき課題点や履修曲目の目安等について出来るだけ明確に指示するよう心がけている。また、大きな課題に直面したり特に進度が遅れたりしている学生が精神的に追い詰められることのないよう、意思の疎通をはかりつつ、少しでも前向きに取り組むことの出来るように助言している。 資格取得に関して「こどものためのピアノⅠ」～「こどものうたと伴奏法Ⅱ」の4単位中2単位以上の修得が求められていることを踏まえて、本科目においても所定の課題曲を履修し1単位を修得出来るよう最大限努力すること、またどうしても課題曲の履修が間に合わず当科目の単位修得が出来ない場合でも、次期の「こどものうたと伴奏法Ⅰ」において必ず単位を修得出来るよう、自らの計画性と展望を持って受講するよう指導している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価を見ると、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値は4.0点であった。また、課題曲の履修状況と期末の実技試験の評価を総合的に振り返ってみると、本科目の単位を修得した68名に関しては概ね標準的レベルに到達したことが窺えたことから、技能表現に関わる目標については、やや達成されたと言えるのではないかと考える。 その一方で、当科目の特性上、予め提示した課題曲の履修が間に合わなかった学生は単位を修得出来ず、次期の「こどものうたと伴奏法Ⅰ」において残された課題を補填することとしているが、これに該当する学生は25名で受講者中26%を占めた。今後、この学生たちにおいても「こどものうたと伴奏法Ⅰ」において、出来るだけ早期に当科目の標準的レベルを満たすことの出来るよう留意しつつ、さらに手厚く指導していく必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は在学中の2年間4期に渡って継続的・段階的に進行していく実技系演習科目の中で、前期で習得した基礎的能力を踏まえてより実践的な力を身につけるための重要な位置にあり、資格取得を目指す上でも出来る限り単位修得しておくことを求めているものである。必要に応じて前期の基礎的な内容を振り返りつつ、ピアノ実技受講経験の浅い学生でも無理なく演習を積み重ねていくように使用教材にも配慮しており、受講者全員が個人差はあってもそれぞれの進度に合わせて技能を習得している現状から、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の技能面では大きな個人差があるが、全6名（専任1名、非常勤5名）の教員体制のもと、受講者一人ひとりの進度に個別に対応しつつも、演奏技能の基礎を固め、より実践的な能力を習得することを目標としていることを念頭に置き、教育を行っている。また、前期から運動している課題曲の設定に関しても、4期を見据えた科目であるという特性を踏まえれば概ね妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	能力に大きな個人差のみられる実技系科目であるため、学生個人の現状をよく見極めつつ指導に当たる意識を教員間でも共有することが求められる。また、授業時間以外での自主的な予習・復習に関しては、実技系の演習科目であるという特性上、ほとんどの学生が多くの時間を充てて取り組んでいるということが、「学習量の評価」の予復習時間の集計結果からも明白である。保育科の過密な1週間のカリキュラムの中でも効率的な予習・復習を積み重ねていけるように指導・助言していくことが大切であると感じる。 授業の進め方においては、前期からの連動をしっかりと意識しつつ、何のためにピアノ演奏技能を身につけようとしているのか、学生自身が目標を見失ってしまうことのないように、今後控えている各種実習に臨む際や、就職後の保育現場での実践を日々意識・想定しながら継続的に学びを深め、技能を高めていけるように、一方的な実技指導に陥ることなく、対話を重ねながら進めていくことが重要であると考え。また、複数の教員で担当する科目であるため、グループ間で進行や指導方針等に過大な格差が生じないように十分配慮し、担当教員間で連携を図りながら進めていくことが求められる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	実技科目としての学生間の個人差はありながらも個人の進度に合わせた技能の習得については概ね達成出来たが、上述の授業の進め方や教材設定の在り方においては、引き続き改善の余地があると思われる。また、学生がより意欲的かつ主体的に学ぶことのできる授業環境を整えていくことを目的として、さらなる改善策を模索したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	出末 登代子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こどもの食と栄養	2	前期(後期)	選択	はい	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	こどもの食と栄養は演習科目かつ保育士資格必須科目である。受講動機「必須科目である」86.2%、「資格取得に必要である」44.6%であった。就職先が保育所の学生もいることから納得できる数字である。 当教科は「食育とは」をみずから理解することを中心に授業計画を立案した。授業にみずから参加するように促したつもりである。前期はグループで意見をまとめる発表や個人で給食指導の発表等の演習をとり入れた。後期はクッキング(間食)保育技術修得の講義・調理実習をとり入た。みずから調理に取り組めるようレシピを各自が調べ、グループでレシピを採用・実習を行う取組の実践を2回程度おこなった。さらに事前に学習することで理解度を深めるため、課題のいくつかは予習する内容の学習課題とした。 今年度は1コマ(90分間)/日の授業、通年での単位取得であった。授業内容の「こどもの発育・発達」に応じた「食の内容・援助・支援方法等」に幅(乳児期：胎児期→乳汁期→離乳期～)をもたせ「こどもの発育・発達に応じた食」の内容理解を促すためでもあった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①DP1知識理解 小テストを除き達成度評価の平均値は80点/(100点で換算)を上回っていた。小テスト・知識理解の結果はS・A54.4%、D14.4%であった。「学習量の評価・授業参加の準備：0～1回」52.2%、「情報利用・シラバス：参考にしなない」59.7%であった。シラバスに小テスト・学習内容は「〇〇〇を理解」と記載をおこなった。学習量や情報利用が小テストと相関があるため、情報利用をもっと促す必要があった。用語の意味や内容を理解する姿勢の重要性はわかっているようだが、学習量の評価・自由記述に「勉強が苦手。時間がなかった。」等の記述がみられた。以上より「やや達成された」とした。 ②DP5技術表現 DP1同様小テストを除き達成度評価の平均値は80点/(100点で換算)を上回っていた。小テスト・養護技術分野の結果S・A45.6%、D10.0%であった。点数化できないが、食育実践におけるレシピ活用・クッキング保育での授業参加態度は積極的であった。推定だが自由記述「調理実習が楽しかった」に反映されているのではないかと考えられた。また保育者を目指す学生らしい、こどもが興味を持つであろう発表教材も観察された。以上と当教科の技術・DP5は経験の必要性を加味し「達成された」とした。 ③全体を通して 最終成績の平均値81.1±7.1(中央値82)であり、標準的レベル以上が88.9%、そのうち65.6%が理想的レベルであった。俯瞰した結果、全体をととして「達成された」よりも、保育者として食育に関わる機会がおいにえるためより研鑽を期待したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 当教科は保育者に必要な専門科目であり、保育士資格必須科目である。受講動機「必須科目である」86.2%、「資格取得に必要である」44.6%であった。保育者に対する児童福祉施設等におけるニーズは幼稚園教諭免許と保育士資格両方の保持者が求められている。幼稚園、認定こども園、保育所等、特に乳幼児に関わる施設では食育の取組が必要とされていることから内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度の自己評価をみると「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」のポイントが高く「わりに・かなりそう思う」が68.7%を占めていた。これは当教科のDP1-2・知識の習得との関連性が推測された。またDP5-3・技術を身につけるは、当教科における食をとおしての援助・支援を身につける調乳演習などや、演習・実習後のレポート記述「こどもの食生活上の問題とその対応など」から内容的に妥当であると考えた。 ③まとめ 以上から内容的妥当性には問題ないと考えられた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期はワークシートを活用した演習と食育の内容の理解に重点をおいた。一部ワークシートは事前学習が必要であった。特にグループ学習の食育の取組・プレゼンは事前学習が必要条件であった。学習量の評価「時間がなかった」等から夏季休暇中の学外実習準備や就職活動のため時間がとれないと推測すると、前期授業の進め方は学生には厳しかったようである。 後期は演習とこどもの発育・発達に応じた調理実習・クッキング保育技術修得の講義・調理実習をおこなった。学習量評価の自由記述に「料理の実践」、また教員への意見では「調理実習が楽しかった」という記載がみられた。保育者として食育をすすめる上でこどもたちが、興味関心をもつ重要性を授業で講義したので一定の成果は得られたのではないかと考えられた。 今年度は通年の単位取得科目であった。過去(2コマ/日)においては、出席不足のため単位修得ができなかった学生がいた。今年度は欠席した場合でも、1コマ/日のため単位修得が危ぶまれる学生がいなかった。この単位修得方針は学生にとって有利であった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	村上 里絵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こどもの生活とあそび	2	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生後期の授業であり、次年度には保育現場で子どもの園生活を大切にして、遊び(活動)を発展させていく役割を意識して担えるように、授業を展開してきた。また、小学校との接続の大切さと共に「乳幼児教育」と「小学校以降の教育」との違いを理解し、意識できるようにテキストを使って、乳幼児期の子どもの学びを伝えていった。②更に、幼稚園や保育園で実際行っている遊びを中心に取り組んでみた。そこでは、子どもを理解し、その子どもの気持ちに寄り添う保育者存在の重要性を実際に体感できたのではないと思う。③今回の受講動機を見ると、「資格取得に必要である」が、52.6%と一番多いが、資格を取得しようと思う気持ちと「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」気持ちとのバランスを図る授業にするには、まだまだ学生レベルに立った工夫が必要であるとの認識を持った。④学生の授業評価自由記述から、「とてもわかりやすく、保育者になる者としてどのように子どもに接したら良いか、分かった授業でした。」「先生の実体験の話が聞けて良かったです。」などの意見も参考に来年度の授業計画を立てていきたいと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①テキスト「育ちと学びをつなげる幼小連携」に述べられている実践事例を3つ選んで、保育者として「子どもの学び」を考えたレポートが書けるようにと、レポートテーマを「子どもの育ちと学びを考える」とし課題を出した。テーマに視点を当てながら、研究的考え方ができてかなり熟考してレポートしている学生と、数名であるが、他人のレポートを写して提出している学生があり、「自分で考える」「考えをレポートしようとする」動機づけの難しさも感じられた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①「自分なりの目標を達成した」の「かなりそう思う」16%、「わりにそう思う」が43%で、合せて59%であるが、「まあまあそうだと思う」が40%であり、なんとなく目標を達成したと感じている学生が多いのことがうかがえる。②解決策になるかどうかは不明であるが、授業の初めのオリエンテーションで授業内容の説明をしたのちに、学生自身が「受講動機」や「学習到達目標」などを意識できる機会を作った方が、より具体的に学ぼうとする意欲につながるのではないかと考え、次年度の参考にしたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学習量が低いことが、大きな課題である。また、授業の課題以外に具体的に 取り組んだ学習も、「教科書を読んだ」だけでなく、これも課題である。② 図書館で調べたり、調べたことをレポートしたりする機会の確保を次年度の 授業に組み込み、授業の工夫を試みたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生ひとり一人の「専門領域を学ぶ」意欲に刺激が与えられ、学生ひとり 一人の自己学習量が増え、共に学び合える学習環境づくりに努力したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	富永 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こどもの造形あそび	1	後期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1、今回 の受講動機をみると「必修科目である」59.3%、「資格取得に必要である」61.7%とそのほとんどが、資格を取得し将来の仕事につなげるといったコースの特色に応じた答えとなっており、そのことから、現場でも通用する実践的な内容となるように心掛け、関心を引きつけるようにしている。 2、毎回の課題について、必ず自分なりの指導案を書くようにしており、そのことで授業での学習が自分が行う子どもへの活動へとつながりやすいように配慮している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ほぼ全員が標準的レベルに達したが、理想的レベルはまだまだ限られていた。到達度自己評価を見ると、(1)自分なりの目標を達成したが、まあまあそうだと思う31人、わりにそうだと思う44人、かなりそうだと思う5人、平均値3.6となっており、学生自身の評価においても同様に、標準的レベルは達したが、理想的レベルに達しているのは少数と言えるだろう。このことから、標準的な達成度を示すとともに、理想的な達成度をより詳しく、具体的に授業内で伝えていくことを進めていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1CP.カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性～本科目は免許・資格取得のための科目にあたり必修である。内容的には妥当であると考えられる。 2DP.行動目標からみての内容的妥当性～学生の授業評価の結果から、行動目標からみておおむね内容的には妥当であったと考える。 3まとめ～以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において少数ではあるが否定的回答が見受けられた。具体的で分かりやすい説明を心掛けたい。学習量の評価については、課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「時間がなかった」という意見が見られた。この学科は免許・資格を取得するコースであり、かつ短大2年間という短い限られた時間であるため、授業、課題、実習等の多くの学習内容が課せられている。その状況の中ではあるが、より効果的に授業の課題以外の学習に取り組めるように、具体的な学習法や目標を示していきたいと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	基礎的知識の形成については概ね達成できたが、その応用や理想的な学習内容の習得には課題を残した。上でも述べたが、理想的な達成度をより詳しく、具体的に授業内で伝えていくことを進めていきたい。また、予習・復習課題の授業内での提示方法で改善を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こどもの保健Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、保育士資格を取得するためには必修であり、本学科はほぼ全員が保育士資格取得を目指して履修しているため、受講動機も「必修」という意識が高く、「必修科目である」が79.1%、「資格取得に必要である」が62.8%であった。「こどもの保健」は、本科目から始まり、3期5単位の科目である。その第1段階の科目であるため、基礎的知識の習得としては重要な位置づけである。しかしながら、内容が難解な医学的知識であるため、理解までに時間を要すると思っている。そのため、講義での説明は平易な表現に努め、昨年度、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の事項に対し1名が「全くそうでないと思う」、2名が「少しそうでないと思う」と回答していたため、より深い知識の修得がなされるよう講義での説明を充分に行うよう努めた。結果、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目に対しては、「思わない」の2項目に該当する回答は皆無であり、平均4.4点であったため、昨年度の改善は実を結んだと評価している。しかし、授業に対しての予習復習については、年度末のノートチェックでは全受講生が十分なノート作りをしているように思えたが、アンケートの結果によると一度も予習復習をしていないと回答した学生が複数名いたため、次年度は知識の修得のためにもコツコツと勉強できる環境づくりに努めたいと思っています。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度評価としての、定期試験の平均点は70.4点であったが、授業への取り組みやノートの内容、課題への取り組みは例年に比べると良好であり、シラバスに記載している評価基準に基づく、成績評価としては例年並みです。また、授業評価アンケートの「到達度自己評価」も平均値が3.8～4.4と昨年と比較すると上昇した。しかし、例年は、再試験によって全受講生が「可」以上の成績を付けていたが、今年度は、「不可」が1名おり2018年度に再履修となってしまった。再試験までの指導ができず、再履修となってしまったことに当該学生に対し、申し訳ない気持ちである。2018年度では、卒業年次生になりますので、授業外でしっかりと単位取得できるよう指導していきたいと思っています。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、3期にわたる「こどもの保健」5単位の最初の科目である。そのため、正常な子どもの解剖学生理学的知識と基本的な保育園でおこなう養護技術や衛生管理を取り扱っている。この内容が習得できなければ、次期の「こどもの保健Ⅱ」の授業に影響を及ぼしてします。科目オリエンテーションの時には、カリキュラムマップの該当部分を特に抽出して説明を十分におこなった。カリキュラム上での内容的妥当性はあると思っている。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業アンケート結果によると「到達度自己評価」のうち、「自分なりの目標を達成した」について「少しそうでないと思う」が2名いた。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」に「少しそうでないと思う」と回答した学生がいたが、本科目の特性と教授方法では当然の結果だと思っています。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度も、シラバスに、具体的な教科書ページを記載し予習に充てるよう指導してきた。その効果か、授業を履修するにあたりシラバスの記載を参考にしている学生が多くいた。また、授業内容が難解であるため、できる限り専門用語を用いないよう、具体的およびイメージしやすいことばを選び授業をおこなった。しかし、授業アンケートの結果は、「説明は理解し易いものであった」平均値4.5で昨年度と比較すると上昇している。昨年度のアンケート結果を踏まえ、内容を吟味した結果があらわれたと思っています。図書館の利用については、ノートを見る限り、例年に比べて、授業で提示した資料以外の資料をノートに貼っている学生が多く、自己学習が充分行われていたことを確認しています。しかし、アンケートには反映されておらず、学生達の設問に対する捉え方の違いであると認識しています。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年度の反省を踏まえ、講義の内容を少し吟味した結果、アンケート結果が少し改善したと解釈しています。本科目では、多くの知識を得て欲しいという想いを込めているため、授業評価アンケートの結果は、概ね願い通りであったと嬉しく思っています。この傾向を次年度も継続できれば、と思っています。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こどもの保健演習	2	後期	選択	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、保育士資格を取得するためには必修科目であるため、本学科はほぼ全員が保育士資格を取得することから必然的に「必修科目」との認識がされている。そのため、受講動機が「必修科目である」または「資格取得に必要である」と回答している。本科目のDPが「思考判断」および「技術表現」になっていることから、現場で使える技能習得を目指した授業内容を心掛けている。そのため、実技指導はもちろんのこと、状況分析能力および判断能力を養うため、ロールプレイングなどの方法を取り入れ、実践的に学べることを目指した。実習を積み重ね、着任が目の前にある2年生にとっても必要性を十分感じながらの学びへの姿勢が取れやすかったのではないかと考えている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今期も本科目の不可はいなかった。演習科目であるため、授業に出席できなければ必然的に成績は低く、学生達の授業への取り組み度が非常に良好であったため、相対的に秀が多くなった。学生の授業評価結果とも乖離は見られないため、全般的に理想的レベルまで習得できた学生が多かったと評価している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、1年後期の「こどもの保健Ⅰ」、2年前期の「こどもの保健Ⅱ」に続いた科目であり、保健・栄養・障害児等の各科目との関連性も高く、それらの知識を踏まえた演習科目であるため、統合的な内容と位置付けている。学生達の学びの中でも、各科目で学んだことを踏まえ、課題に取り組む姿が多く見られた。カリキュラムマップでの系統性および段階的教育が自然と感ぜられるようになっているため、CP、カリキュラムマップ上の位置づけおよび内容的妥当性はあったと評価している。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 本科目は「思考判断」「技能表現」に重点を置いている。学生からの授業評価においても「知識を確認、修正したり、新たに得ることができる」平均値4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野についての的確に判断する力を得ることができた」平均値4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」平均値4.3とDPに該当する項目がおおむね4.3であったことから昨年度よりは若干下がってはいるものの大半の学生が「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しているため、DPおよび行動目標に対する科目の内容は妥当性があったと判断している。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	既習の「こどもの保健Ⅰ・Ⅱ」は、知識の獲得が主であったため、ノート作成により学修効果を高めてきた。しかし、今期の「こどもの保健演習」は、養護技術を中心とした演習で構成されているため、学習量の評価は、授業の記録に関しても「ノート作成」は少数で、大半が「主に配布資料に記録した」であった。この方法は、奨励している方法であり、問題はないと考えている。予習復習に関しては、全てが実技であるため、個々人での練習等は難しく、課すことに無理があると考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年度は、演習中に教科書に書き込むことができるように、そして、教科書にある課題が演習とリンクするように授業計画を立てました。その結果、教科書を学びの中心に置き、自己学習、演習の取り組みができ、効率的であったと思います。技術演習は、手技をどう記録にとどめるかが難しいと思いますが、学生達は、各々イラストを描いたり工夫をしながら受講していました。今後も学生達が自ずと記録がとれる授業内容にしていきたいと思っています。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	末成 妙子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども音楽療育概論	1	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本年度で2年目の講座である。音楽を通して、心身に障がいのある子どもたちに発達の援助を行うことができる「こども音楽療育士」資格認定の基礎となる科目である。昨年度の30名の受講生数を若干上回る31名の受講生がいて、資格習得に必要であるという回答を上回り、56.7%の学生が関心のある内容であることを受講動機にあげていた。 ②昨年度の反省から障がいへの認識が個々の学生によりかなりの温度差があることが予想されたので、実際の障がい者への末成による音楽的アプローチの映像を見せる前に、学生一人ひとりによる書籍の紹介を毎時間課して自主的な学習姿勢を促すとともに現在の障がいへの考え方などの情報を十分に伝え利用につとめた。2020年の東京オリンピックパラリンピックに向けて日本全体がバリアフリーに関心を持つことが予想される中、保育士として、音楽を通して障がいのある子とかわることを広い視野で考えられるように授業の折々で具体的な例を示しながら教授した。 ③努めて学生の意見を聞きレポートを添削して助言を伝えることで、2年生前期の「こども音楽療育演習」、後期の「こども音楽療育実習」への意欲を喚起できたと考ええる。 ④残念なことにインフルエンザの流行により試験を欠席し、そのフォローが十分に届かなかった学生がいたことは痛恨の極みである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①学習到達度の自己評価が「知識の確認・修正・新たな獲得」の項目、「コミュニケーション力や表現力の向上」「職業選択の参考」のいずれの項目も4.0を超える数値であり、学生自身が目標を達成したという手ごたえを持ったと考えられる。 ②近しい存在に障がいのある人を持つ学生が特に深い関心を持ち授業に参加したので、その積極的な取り組みが他の学生にも良い刺激になり授業の好循環を生んでいた。 ③配布物をファイリングするだけでなくノートを使って毎回の授業を記録することで知識が定着することを説明したが、3分の2の学生は配布物にメモをする方式をとっていた。今後の授業につなげるためにも演習・実習でノートを作成することを徹底させたい。 ④図書館の利用は半数を下回っていた。出版される時点で何らかの検証が行われる活字の信頼性、ネット情報の危うさについて様々な場面で今後も十分に伝えていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①受講に際してシラバスを参考にした学生が半数に上ったにもかかわらず、あらかじめ授業の計画を立て、授業の開始に備えた学生は3分の1になっていたもので、シラバスの活用を学生にもっと徹底する必要性を感じた。そうしたことが授業の後の復習・理解を深める学習につながると考える。 ②身近な施設への関心が薄い学生がいて、ネット上の情報だけを見て理解したかのように安易に考えてしまわないように指導した。図書間の利用が約半数であり、今後も書籍の信頼性を伝えていきたい。 ③日常生活の中で音楽と障がいを結び付けて考えることがほとんどなかった学生が、この講義を通して毎日の生活の見慣れた場面での障がい者の在り方、音楽の力というものについて考えるようになってきたことが学びの成果だったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価の10項目のすべてが3. 8以上の値で、そのうち3項目が4. 0以上の値を示していたので、概ね学生が理解できる正当な授業が展開できたのではないかと考える。特に私の専門分野でもある聴覚障がいへ関心が深かったのは、授業者である私自身の研究の深さに比例していることを思うと、今後も私自身が視野を広め、深く研究する必要を感じた。特に今期には日本音楽教育学会より「聴覚障害者への音楽の授業」に関する論文の査読依頼があり、「聞こえない」ということに関しての一般の人への理解・啓発についての文章をまとめる機会があり、そのことが学生への喚起にもつながったのだと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	日常の保育の中で、障がいのあるこどもも、そうでないこどもも、音楽の力を使って人間的なあたたかい関係を築く場面を設定できる「こども音楽療育」という分野を極めるという目標に向かって、学生は授業に真摯に取り組み、互いの意見をよく認め合い、講義の内容を理解しようと努めていた。障がいの多様性を知り一人ひとりに適切なアセスメントを行い、保育士としてどのこどもたちも園生活が過ごしやすくなるように援助を行うことができることを目指して、次につながる「こども音楽療育演習」「こども音楽療育実習」への理論構築をすることができた。こども音楽療育士を目指す学生たちは、障がいの厳しさと同時に、音楽の持つ人間への深い影響力や、「音楽と聴く力」という、ひとつの根源的な力について理解を深めることができたと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	末成 妙子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こども音楽療育実習	2	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「こども音楽療育概論」「こども音楽療育実習」をふまえた実習を行う科目で、実際に学外の特別支援学校、保育所において障害児たちとの療育的音楽活動を展開する科目である。そのため学生の開講時の学習準備性は高く、意欲的な態度が感じられた。それまでの1年間に机上の学修、学内での実技演習を積み重ねてきたのでより実践的な知識や技能を深めるという授業の概要をよく理解していたためでもあるが、受講生を2つのグループに分けそれぞれが、いつ、どこで、どんなことを実践し検証するか綿密な計画を初回に提示することができたので、教員も学生どうしも具体的な見通しを共有することができた。特に初回で「こども音楽療育の基本」ということでグループに分かれて板書をしながら音楽の多面的な力について意見交換を十分に行えたので、これからの学びへ意欲向上に拍車がかかったと考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①トータルの成績が90点以上が30%、70点台はわずか一人ということで、全員が大変意欲的に取り組み、実習後の報告会、実習記録のまとめかた、個人面談などで公正に評価して手ごたえのある成果だったと考える。しかし学生の(2)知識の確認、修正、新たな獲得の項目がかなりそう思う、わりにそう思うが65%と期待より低かった。2回の実習を設定した保育所では、一度目にかなり厳しい評価をもらったグループが、結果的には2回目に大変改善されたのだが、初回の体験を重く受け止めたことが影響していると考えられる。よい経験としてこれからの実社会で役立てるように報告会では前向きにとらえる指導に努めた。 ②専門分野の課題検討の力、専門分野における的確な判断力の項目でいずれも3.9という数値であったが、卒業を前に、自己評価が少しずつ厳しくなっていることを考え合わせると、自己をよく見つめ、これから旅立つ現場への、真摯な姿勢がうかがえる。個人面談ではグループ活動の不具合を述べることもなく、実に協働作業が滞りなく進められたかがわかり、学生たちの1年半にわたる取り組みの成果を実感した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年後期の「こども音楽療育概論」、2年前期の「こども音楽療育演習」そして本科目である2年後期の「こども音楽療育実習」を終え、全員が「こども音楽療育士」の認定を受けることができた。1対象児の理解を深め、2実習を通して、療育的音楽活動の効果を実感し、3実際の療育的音楽活動を実施する力を持ち、自身の療育的音楽活動の振り返りをして、より対象児に合った療育の在り方を考察できるという学生の達成目標をめざし、学生自身による授業の質の評価で、5項目すべてで、わりにそう思う、かなりそう思うが65%で、そう思うなかった学生がゼロだったので、内容的には妥当であったと考える。受講動機の、1資格習得に必要であり、2関心がある内容である、ということを満たしたと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	療育的音楽活動を展開することによって、対象児の変化をとらえることができ、実習記録に記載できることが望ましかったが、限られた回数の中では変化を把握するまでに至らず、次の実践計画を机上の学修に留めるに終わってしまった。充実した実習報告会を足掛かりに、実践を繰り返す毎に技術が磨かれていくことを実感したので、これからの療育的音楽活動も見守っていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は関連するすべての科目内容の統合であった。「こども音楽療育概論」「こども音楽療育演習」「保育内容・表現」「障がい児保育Ⅰ・Ⅱ」「音楽の基礎」「こどものうたあそび」「こどもの歌と伴奏法Ⅰ・Ⅱ」いずれの教科も余すところなく役立てて、療育的音楽活動の支えにすることが肝要である。音楽への鋭い感性とこども理解、障がい理解、音楽的技能の向上をこれからも目指して「こども音楽療育士」として音楽の力を療育に活かしていくための努力を、学生一人ひとりに面談をとおして伝えた。志のある学生を前に、一対一のきめ細やかな指導ができたことは大変良かったと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こども学基礎演習	1	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は保育科の必修科目である。一年を通して、他者と協働する力や短大生としての基礎的能力を高められるように授業を展開している。テーマごとに目的を明確に伝え、昨年度までの資料を有効に活用して学生が「何をすればよいのか」理解しやすいように配慮した。教員は極力様子を見守り、ゼミ長を中心に学生自身が考え行動できるようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は平均92点(最高点95点、A-10名、B-1名)である。全員がAまたはBを取得しており、目標はほぼ達成されたと考えられる。「到達度自己評価」では、平均値が4.0～4.4の間に留まってはいるが、本科目の目的である「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」では4.4であり、学生自身も目標に近づけたことを意識していると考えられる。しかしながら、講座を設けているにも関わらず図書館等の利用の割合が低いことから、次年度はレポート課題において、客観的資料をもとに作成することができるよう働きかけたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は保育科の必修科目であり、学年のうち11名がゼミとして活動する科目である。少人数ではあるが、他者と協働するテーマが多く、中には自分たちで企画・運営することもあるため、対象に応じた準備・実践を行う必要がある。保育に関連する内容も多いため、事前準備から大変さは感じつつも楽しみながら意欲的に受講している姿が見られた。事後の課題検討も含め、DPIに示されている「態度」や「技能表現」など、保育者として必要とされる資質の向上にもつながっていると考えられる。 以上の事より、内容的妥当性に問題はないと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は3.5～4.2の間であり、昨年度と比較すると「授業の評価基準」についての項目の値が低かった。予め評価の観点を学生に伝え、学生にとって分かりやすい評価になるように改善を心掛けたい。ただし、「学生が参加する機会」については前年度より値が高くなっている。学生同士の関係性などもあると思うが、次年度も引き続き、お互いが意見を出し合えるような働きかけをしていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の授業への取り組み状況及び評価結果を見ると、概ね授業の目標が達成できたと考えられる。「評価」については、適切な範囲で学生が意識できるように説明し、次年度も学生自身が考え、主体的に参加できる授業になるように心掛けていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学基礎演習	1	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業では、「人間関係形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプラン能力」といった保育者・社会人として必要とされる基本的な力を養うため、丁寧な個別対応を行うことを心掛けた。また、学生が主体的に考え、行動できるよう意識的な働きかけを行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価として、全ての受講生がS評価であった。 他方、学生による授業評価をみると、「学習達成度の自己評価」「授業の質的評価」のすべての項目で82%以上が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしている。しかし、「学習量の評価」では、授業準備や復習にかんする項目で約82%が1回未満、授業以外の自主的な学習に関する項目で約73%がしていないと評価している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「専門教育科目」における「総合演習」であり、保育者・社会人としての人間形成を行ううえで基底に位置づけられた必修である。 DPに関して、「到達度自己評価」における態度および「技能表現」を示す項目で、「わりにそうだと思う」以上の肯定的評価をしている。 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業では、学生が主体的に取り組むことができるよう、可能な限り学生が発言できる機会をつくっている。また、学習への動機づけや健全な学生生活リズムづくりができるよう、個別的なサポートを心掛けた。 他方、学生の自己評価をみると、授業を振り返るための復習や授業の課題以外での学習に関して、多くのが学生が低い評価をつけている。学生の主体的かつ自律的な学習スタイルの構築を支援していくためにも、意識的な声掛けや個別的サポートを引き続き行っていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の評価結果から、本科目の学習目標は全体的にはやや達成できたと考える。昨年度得た課題をもとに、ゼミ運営の方法の見直しや学生個々へのサポートの充実を図ったが、今年度も学生の主体的かつ自律的な学習スタイルの構築という点で課題を残す結果となった。本科目は保育者・社会人として必要とされる基本的な力を養うことに主眼をおり、学生個々の主体性、自律性を高めることは重要な課題である。次年度も、学生個々がこのような力を育むことができるよう、改善策を講じていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学基礎演習	1	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は保育科の必修科目である。2年間の短大での学びの動機づけや保育者・社会人として必要な基本的スキルを身につけるために、学生が主体となって考えられるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は86.9点(S-8、A-3、C-2)である。ほとんどの学生がS・Aを取得していることから、目標は達成されたと考えている。授業評価アンケートの結果(コミュニケーション力や表現力を高めることができた4.1ポイント、授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた4.4ポイントなど)から、シラバスにある理想的到達レベルに達し、教育目標は達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は保育科の必修科目である。少人数のゼミ方式で、保育者としての「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」等を段階的に身につけるために、新入生研修でのレクリエーションの企画運営、大学祭での催し物の企画運営などを、学生を主体に行った。対象に合わせた計画を立て、実践したうえで自ら課題を見つけ改善していく姿が見られた。自己評価の達成率も4.0ポイントであったので、内容的に妥当であったと言える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	図書館利用やインターネット使用が約半数の学生のみであったので、今後は全員が主体的に調査に参加できるように促したい。また、教員が提供した活動については積極的に取り組んでいたものの、学生自身が活動を提案する機会が少なかったため、学生自身が主体的に考えることができるようにしていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	他者との協同やその他の取り組み状況をみると、全体的には授業の目的は達成されたと考えられる。しかしながら、個々人については課題が残っていると思われるので、個人面談などを積み重ね、少人数制のゼミの良さを生かせるように検討したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	植村 和彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学基礎演習	1	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	少人数制による演習という特性を生かし、出来る限り個別にコミュニケーションをとりつつも、受講者一人ひとりが主体的に演習や活動に参加できるような授業環境づくりに配慮した。また、学生の受講動機に関する回答では、①「必修科目である」(選択率100%)、②「資格取得に必要である」(選択率22.2%)に加えて、④「単位数を確保する」(選択率22.2%)が挙げられた。2年次の「こども学特別演習」まで4期にわたって、保育者としての「人間関係形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」等を身につけていく上での、導入的科目である本科目の、学科のカリキュラム上での重要性を受講者が認識した上で、取り組めるように心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など		到達度自己評価を見ると、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は4.0点であったこと、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.8点であったことから、技能表現に関わる目標については、やや達成されたと言えるのではないかと。また、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が3.6点となっていることから見ても、態度に関する目標についても、やや達成されたということが言えるのではないかと。				

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は2年次までの4期に渡って継続的・段階的に進行していく「こども学基礎演習」～「こども学特別演習」の前半部分に位置する科目であり、必修科目となっている。2年間の短期大学部での学習の動機づけ、保育者・社会人として必要な基本的スキルを身につけていくための内容が組まれており、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 少人数によるゼミ制のもとで、学生自身が他者とのコミュニケーションの中で、それぞれ自己の役割を見出し、他者を認めつつ協働して取り組む姿勢を身につけることを重視している。また、自分自身の将来の見通しを立て、具体的な行動目標を立てて実施できることを理想としており、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価における設問(5項目)の平均値は4.0点～4.2点であった。 また、図書館等の利用においては、「図書館の図書、雑誌を利用した」が11名中1名、「図書館から利用できる学術データベースを検索し、利用した」が11名中0名、「インターネットのホームページを検索し、利用した」が11名中2名であった。学生全員が主体的に図書館等を利用した調査に参加できるように促したい。 学習量の評価における「自発的学習」の項目で11名全員が「していない」と回答していることを踏まえ、授業で取り扱われる内容から学生自身がさらに学びを広げていくことのできるような工夫をしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ゼミ活動において欠かす事のできないコミュニケーション能力の構築と自己の役割を把握しつつ他者と協働する力が身につけやすい設定となっていた。全体として達成度や内容の妥当性などに関しては問題ないと考えられるが、学生個人の取り組みや学習状況を振り返ると、課題も残っているように感じる。グループによる演習形態を採っているからこそ、学生個人に対する支援を怠らず、各自が自らの意思表示をしつつ個性を発揮していけるような、優れた協調性を育むことができるよう促していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学基礎演習	1	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	全キャリア講座が大切にしている、「保育者としての業意識や態度、子どもを総合的に理解しそれに基づく援助を行っていく専門的知識・技能、保護者や地域と連携することのできる調整力」に基づき、学生たちが自己を見つめ将来像を明確にしていく過程において、身につけておくべき基本的なマナーを学ぶこと、また、他者に伝える力を養える内容を取り上げ、プレゼンテーション力を重視して授業を進めた。学生自らが研究テーマを見いだせるよう援助し、教員主導ではなく、学生自らが主体的に進められるよう、配慮した。 大学祭における「フェアトレードのカフェ出店」の企画は、2年生のゼミ主導のもと、計画の時期から1年生においても学生の主体性が見られ、当日の実施においても、ゼミ長のリーダーシップのもと、よいチームワークを働かせることができた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、①自分なりの目標を達成した(4.2)、⑨職業倫理や行動規範について学ぶ事ができた(3.9)、などから、全体として教育目標がやや達成されたと言える。達成の目安の標準レベルである「社会人として、保育者として必要な基本的なマナーがわかる。また、一連の研究プロセスに基づいて課題解決に取り組もうとし、自分の意見を他者に伝えることができる。」に対し、マナーの学びや研究プロセスにおいても、学生が主体的に進めることができ、その成果を他者にわかりやすく表現することができたため、態度についても、やや達成されたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会人基礎力を養う「必修」科目である。グループとして自ら課題を設定し、発表にむけ切磋琢磨しながら、学外の社会の現場を発表の場として設定し、北九州市との共催として実施したことは、学生たちが専門分野の知識を生かし、社会において実践するためには妥当だったと言える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価の全てにおいて、平均として3.6ポイントであったことも、本科目の行動目標①②③すべてにおいて、学生自らが到達できたことの現れであり、内容的に妥当であったと言える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均が4.2ポイントであり、大きな問題はみられないが、学習量において、活動の記録ができていなかったことが課題としてあげられる。記録の取り方について、今後検討する必要がある。また、情報利用や図書館利用についても、最新の情報に触れられるように促す工夫を検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	社会人基礎力を養う位置づけからも、トータルとして、学生の達成度が高かったことは今後につなげていきたいが、個人レベルでは、より細かい指導を必要としている学生もいる。極めの細かい指導を心得、一人ひとりがより積極的に関われるよう、サポートしていきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学基礎演習	1	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、卒業必修のため受講動機が「必修科目である」がほとんどであった。受講者数はゼミ単位での開講のため少人数であるため、ゼミ生の進捗状況にあわせて授業を展開していったためシラバスを実際に見て次回の授業に備えるというよりは、授業の最後に次回の内容を説明する、という流れであったため、シラバスの活用や計画の立案などへの意識は薄かったと思います。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業アンケートの「到達度自己評価」は、全項目において平均値が4.2～4.5であり、受講生の満足度はまずまず得られたのではないだろうか考える。今期は、内容的にも学生も私自身も手ごたえが例年に比べると少なく、過程を充実させることで補おうと試みました。授業への取り組み度としては全学生良好であり、シラバスに基づく評価は良好であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、初年次教育としての位置づけであるため、カリキュラムマップ上、全ての科目の土台となる科目である。短大2年間の勉学のstartとして、また、今後社会人としてさらには職業人としての基本的なマナーや一般知識、キャリア開発に必要なスキルの基本を身につける科目として存在する。シラバスの内容としては、DP、CP、カリキュラムマップの内容的妥当性はあると評価でき、学生達のアンケート結果も4.2を下回る項目がなかったため今年度もよかったのではないかと考えています。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	全受講生と図書館において文献検索をおこない、資料の読み込みを行ったため、図書館の利用について、アンケートによると6名が「利用しなかった」と回答しているが、事実とは異なっている。「学習量の評価」についても自由記載に複数あるように「大学祭の準備」を時間外で自主的にこなっていたため、回答とは異なる。行事への企画運営は、上級生と共に実施し、反対に、初年次教育・キャリア教育の事項については基本的には「個」を大切におこなった。このことが充実感を生んでいると考えるため、今後も、「個」を重点に本科目の運営を行っていきたいと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、ゼミナール方式であるため運営がしやすく、その時その時の受講生の手ごたえを肌で感じ、その都度試行錯誤して授業を展開することができるため、達成度は高い。今年度も高評価であり、2年生でのゼミを決める際にも本科目の受講生の大半が「こども学特別演習」を希望しました。本科目の活動が2年生でさらに発展させたいと思っている様子で、初年次教育としては意義あるものとなったのではないかと考えています。次年度も受講生達の満足度をさらに挙げられるよう学生の個々の特性を把握し工夫をしていきたいと思っています。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	末 崙 雅美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学基礎演習	1	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は「必修科目である」が70%である。 ②入学直後は人間関係づくりと協働できる力を育成する内容、その後はレポート作成や発表など学生として必要となる能力、保育行事の企画を前期中に、後期では社会人としてのマナーやキャリア形成に関わる学習、保育行事企画の実施などを行った。保育行事の実施に関しては、チームワークや協働関係、企画遂行能力が求められ、学生が自発的に学べるよう配慮を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目の主な目的である「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」については4.3と高い結果を得た。またキャリア形成の内容も含んでいたため「職業選択の参考になった」は3.9という結果であった。これらの結果からDP4、5に関しては「やや達成された」と評価ができる。 授業の質評価に関しては、3.7-4.0と概ね高い結果となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門教育科目」の「総合演習」に位置付いている。12名という少人数の単位で、仲間意識を高めながら自発的に企画運営を行う内容であり、また保育者としての専門性も求められるため、内容は妥当であると考えられる。またDP1に関しても、保育者や社会人として必要な態度を形成することが求められ、企画遂行能力など技能も必要となり、DP1についても妥当であると考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	18年度の本科目に関しては、授業内容が大幅に変わっている。17年度から引き継ぐ課題としては、より学生が自発的になり、保育者としての自覚が高まっていくよう な働きかけや工夫が必要かと思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業の目標は概ね達成できたと考える。学生が2年目の自発的な学びにつなげることができたのではないかと。課題としては、上述したようにより自発的に学習に参加 し、保育者としての自覚が高まるような働きかけや工夫があると考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学基礎演習	1	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は、必修科目だから履修している学生がほとんどであり、1年生を少人数グループに分け、アドバイザー制度とリンクしながら、学生生活や学習態度についても指導することが授業の目的である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度の自己評価は概ね高い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門科目への導入科目であり、初年次教育の位置づけである。授業内容は学科で検討されており、妥当な内容であると言える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	少人数グループでの受講を指向しているが、授業を担当する専任教員の人数が制限となり、必ずしも達成できていない。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業内容は妥当であり、学生の達成状況も充分であるといえる。10名以下での受講が可能であれば、より細やかな指導やフットワークの良い活動が可能であると 考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学特別演習	2	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は保育科の必修科目である。一年次の「こども学基礎演習」での学びを踏まえた上で、より専門的に保育の内容に特化したゼミ活動を展開している。実践活動は実習でも行うが、それは常に全てを評価されるという緊張感に包まれているため、ゼミ活動では責任感を持って活動しながらも、ゆったりとした雰囲気の中で遊びを展開していくことを目的としている。対象は子どもから高校生、親子など様々であるが、内容は学生自身が主体となって考えられるように働きかけるように心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は平均93点(最高98点、最低80点、A-12人、B-1人)であり、目的は達成されたと考えられる。評価はグループ討議での積極的発言や製作への取り組み、準備への貢献度などを中心に行った。より対象が楽しめるように作品や内容を吟味するため、授業時間以外も活動を行ってきた。しかしながら、積極的に活動する学生への負担が高くなる傾向も見られたため、次年度以降の改善に活かしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は保育科専門教育科目の必修でもあり、学生は保育科教員の専門性に依じて自らが選択した担当教員のゼミに配属されている。本ゼミはボランティアも含む保育活動を展開しているが、実習での経験を基に学生自身が対象を中心とした実践を行い、実践後は課題を明確にしたうえで次の活動や実習に活かしている。これは対象に合わせた計画を立て、実践したうえで自ら課題を見つけ改善をしていくという、保育者として必要とされる資質でもある。 以上のことより、内容的妥当性に問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は4.7(1項目)、4.8(4項目)であった。学生たちが興味・関心を持つゼミ・教員を自ら選択しているためであることも考えられるが、実践を通して学生たちの達成感や満足度が高かった(到達度自己評価4.8-10項目)ことも影響していると考えられる。学生は、教員が提供した活動について、対象に配慮した展開ができるように積極的に取り組む様子がみられた。次年度も学生が主体的に考えることができるようにしていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	他者との協同やその他の取り組み状況を見ると、基本となる授業の目的は達成されたと考えられる。次年度はより学生の意見が反映できるような働きかけを行えるように心掛けたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こども学特別演習	2	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、保育に関連する学びの総合的な科目として位置付けられている。本ゼミでは、保育と福祉の関連や保育者に必要な福祉の視点を養うことなどに主眼をおいたゼミ活動を行っている。今年度は福祉に関する知識的理解を高めるための講義、障害児向けのレクリエーション教材の作成、保育者の職業理解を促すことを目的とした施設の文化祭の見学等を行った。また、学生自身が責任感をもち、能動的に活動できるよう学生主体のゼミ運営を心掛けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績評価としてS＝4名、A＝6名、B＝0名、C＝0名であり、全ての受講生がSあるいはA評価であった。他方、学生による授業評価をみると、「学習達成度の自己評価」「授業の質的評価」の項目に関して、全体的に肯定的な評価がなされている。しかし、「学習量の評価」では、授業準備や復習にかんする項目での約50%の学生が1回未満という評価をしている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「専門科目」における「総合演習」として、保育者・社会人としての人間形成を行ううえで基底をなす位置にあり、必修である。DPに関して、「学習達成度の自己評価」における態度を示す項目で、全ての学生が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしている。以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゼミでは、学生が主体的に取り組むことができるよう、可能な限り学生が発言できる機会を提供することを心掛けている。学生が自らの興味・関心に基づきゼミ選択を行い活動に取り組んでいるためか、到達度自己評価の項目に関して肯定的な評価をしている(10項目平均4.43)。他方、学生の自己評価をみると、授業を振り返るための復習や授業の課題以外での学習に関して、多くの学生が低い評価をつけている。次年度は、学生が主導性を高め、主体的に考え行動できるよう、ゼミ運営の改善を行ってきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の評価結果から、本科目における学習目標はやや達成されたと考える。主体性や自律性は、保育者として必要となる基礎的能力の一つである。次年度は、保育者に必要となる能力を高めることができるよう意識的な取り組みを行っていくとともに、学生が主体的にゼミ運営に参加できるよう改善を図ってきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学特別演習	2	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であるので学生は全員受講している。一年次の「こども学基礎演習」での学びを踏まえた上で、学生自らが様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し解決できるように指導を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は88.6点(S-7、A-4、B-2)である。ほとんどの学生がSまたはAを取得していることから、目標は達成されたと考えている。Sを取得した学生は、保育者として自己分析ができ卒業までの課題を発見し適切な計画を立てることができるようになっていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門科目」における「総合演習」に位置づけられており、卒業必修科目であるため受講の意欲は高い。成績評価を見てもほとんどの学生において現段階での課題は達成されており、自己評価の達成率も4.3ポイントであったので、内容的には妥当であったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	教師からの一方的な講義にならないように、グループワークや学生が発言 できるような内容で授業を行った。それにより学生が考えて発言・行動する 姿が見られたが、発言する学生に偏りがみられるため、すべての学生が発 言しやすい環境づくりができるように検討していきたい。また、図書館や インターネットの利用率が低かったので、積極的に利用するように促したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は達成されたと 考えられる。次年度は学生の意見がより反映できるように個別面談を行う など、少人数制のゼミの良さを生かせるように検討したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	植村 和彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こども学特別演習	2	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年次の「こども学基礎演習」同様に少人数制による演習という特性を生かし、出来る限り個別にコミュニケーションをとりつつも、受講者一人ひとりが主体的に演習や活動に参加できるような授業環境づくりに配慮した。学生の受講動機に関する回答では、①「必修科目である」(選択率100%)のみが挙げられていた。2年間にわたる「こども学基礎演習」および「こども学特別演習」において重視されている「保育者としての職業意識や態度、子どもを総合的に理解しそれに基づく援助を行っていく専門的知識・技能、保護者や地域と連携することのできる調整力」に基づき、この「こども学特別演習」では、自己の研究課題に合致した指導教員のもと、実践的に研究することを目的としているため、学生が主体的に研究課題を設定し、学生自らが企画・実践できるよう、附属幼稚園と連携して子育て支援及び、学習発表の機会を設けた。また、他のゼミと協力して行う設定としたため、他のゼミ学生との協力体制の中で、他者と連携する調整力などを養うねらいを定めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価を見ると、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.2点、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.8点、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値が3.8点であったことから、技能表現 (DP5)に関わる目標については、やや達成されたと言えるのではないかと。また、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が3.8点であったことからみても、態度に関する目標についても、やや達成されたということが言えるのではないかと。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は2年間4期に渡って継続的・段階的に進行していく「こども学基礎演習」～「こども学特別演習」の総まとめとして位置付けられる必修科目である。主に音楽表現の実践に取り組む上で、学外の地域社会の現場を発表の場として設定し、附属幼稚園との連携により実施したことや、夏祭り等行事において発表をすることができ、学生たちが専門分野の知識を生かし、社会において実践するための機会設定としても妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 到達度自己評価の項目(1)、および項目(4)～(8)において平均値が3.5点～4.2点であったことから、本科目の行動目標1～3においても、学生自らが概ね到達できたことの現れであり、内容的に妥当であったと言える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が3.8点であった。 また、図書館等の利用においては、当ゼミでは行わなかったが、次年度以降、図書館等の利用についても検討し、促していきたい。 特に活動の記録ができていなかったことがあげられる。ただ、企画・実施するだけでなく、今後の参考ともなる記録の取り方について、今後検討する必要がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生個人が自らの関心のある専門分野について主体的に学びを深めることができるよう、一人ひとりの状況を注視しつつ、グループ活動において協調性やリーダーシップを養うことのできるような内容について、さらに検討を重ねていく必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学特別演習	2	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	こども学特別演習は、保育に関連する学びの総合的な科目として位置付けられており、こども学基礎演習やその他の科目で学んだことを土台として、ゼミごとにテーマや活動内容を決めて、それぞれに実践的に学びを深める科目である。今年度は、1年生後期で学習した「キリスト教保育」に基づき、「世界の子どもたち」をテーマに、学生たちが主体的に調査・研究を進め、具体的にその学びを社会に還元できるよう、1年生と共同で大学祭にてフェートレードのカフェを出店した。今年は特に、「世界のこどもたち」というテーマを学生自らが選択し受講したため、主体的に活動する学生が多かった。後期は、大学祭の出店のみならず、クリスマス礼拝でのボランティアを積極的に行ったことが今年の特徴であった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、①自分なりの目標を達成した(4.1)、⑨職業倫理や行動規範について学ぶ事ができた(4.1)、などから、全体として教育目標がやや達成されたと言える。達成の目安の標準レベルである「社会人として、保育者として必要な基本的なマナーがわかる。また、一連の研究プロセスに基づいて課題解決に取り組もうとし、自分の意見を他者に伝えることができる。」に対し、マナーの学びや研究プロセスにおいても、学生が主体的に進めることができ、その成果を他者にわかりやすく表現することができたため、態度についても、やや達成されたと言える。授業評価アンケートの結果より、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.0ポイント、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.3ポイントであった。トータルの成績の平均値は約85%以上。トータルの成績からみても、達成の理想レベルである「研究課題に対し、ゼミ教員と相談しながら主体的に進めることができ、その成果を他者にわかりやすく表現することができる」という内容に関しては、達成されたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は社会人基礎力を養う「必修」科目である。グループとして自ら課題を設定し、研究を進め、大学祭において出店を経験し、寄付を行ったことは、学生たちが専門分野の知識を生かし、社会において実践するためには妥当だったと言える。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 到達度自己評価の全てにおいて、平均として4.1ポイントであったことも、本科目の行動目標①②③すべてにおいて、学生自らが到達できたことの現れであり、内容的に妥当であったと言える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均が4.3ポイントであった。学習量において、活動の記録ができていなかったことが課題としてあげられる。記録の取り方について、今後検討する必要がある。また、情報利用や図書館利用についても、最新の情報に触れられるように促す工夫を検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	社会人基礎力を養う位置づけから、トータルとして、学生の達成度が高かったことは今後につなげていきたいが、個人レベルでは、より極めの細かい指導を目指し、一人ひとりがより積極的に関わり、一部の人の負担を負うことができるようなゼミ作り、チームワーク作りを目指したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こども学特別演習	2	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「卒業必修科目」であるため、受講動機も「必修科目である」が100%となり本科目の位置づけを充分理解していました。今年度も、毎月ゼミの時間に井堀市民センターでの子育て支援活動を課し、また今年度からは地域連携室への申請もおこなったため学生達の意識も高く、その企画運営に多くの時間を割いた。また、今年度もこのような活動に関心が高い学生が集まったため、士気も上がり、ゼミ全体の学ぶ意識も高かった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ゼミ活動は、毎月の行事に追われていたが毎回の振り返り会を必ず行い、課題を抽出し具体策を得るというPDCAサイクルができていた。また、この流れは学生が中心となって開催しており、行事に対する企画力、技術力、コミュニケーション力も急成長を遂げ、本科目の目標を充分達成している。学生達の自由記載の内容も「たくさん活動した！」と記述されているように充実感がうかがえます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、キャリア教育の完成の位置づけであるため、保育科の教育全体を支える土台でもあり、総括でもある。ゼミ活動は実践的で、実際に子ども達との触れあいによるものであり、さらに、実習では体験できない保護者との関わりができる絶好の機会でもあった。そのことから、今までの学習してきた総括、そして、キャリア教育そのものであると考えられ、DP、CP、カリキュラムマップの位置づけからも内容は妥当であったと評価している。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「学習量の評価」は評価が低いですが、実際にはゼミ時間外で自分の空きコマや放課後に自主的に残って作業をしたりしていた。本科目は、学生自身が希望して選択して決定するため、当ゼミの内容に賛同している学生であることから、他学生から見ると過重に思えるかもしれないが、受講生達からの満足度は得られていると思われる。また今年度の受講生達は、次に引き継ぐことにも視野に入れて活動していました。その結果、「大学祭マニュアル」や「井堀フレイ隊ノート」が自主的に作成され、次年度ゼミ生へ年度内での引継ぎが行われました。教員主導の進行ではなく学生が自ら時間管理をおこなうようになり、本科目の授業の進め方自体も着任に向けて重要なスキル取得になっているのではないかと考えています。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生達の活躍できる場を提供し、その環境を整えること、側面的な支援が本科目における私の使命と考えています。活動の対象者からの評価も高く、次年度の継続を切望されているため、活動は続けたいと考えています。次年度も、学生の負担が増大しないよう配慮しつつ、さらに内容のレベルを上げていけるようにブラッシュアップしていきたいと考えています。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こども学特別演習	2	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学内外での活動を通じて、体験的に学習していくことを目標に授業を計画した。受講生は、地域の子育て支援への関心を持って選択していた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生は、実際に地域での子育て支援に参加しており、自分たちでプログラム内容を計画し、実施することもあった。また、外部講師によるワークショップに、スタッフとして参加することで、受講生の知見や技術も向上したと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育職を目指す学生を対象に、地域での子育て支援の実践と、自分たちで企画した活動を実践することを中心に授業内容はくまれている。保育に対する意欲と関心を高め、保育の表現技術やコミュニケーション能力を実践的に高める内容であったと評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は実践的であった。今後、実践した内容を他の講義内容とリンクする ような支援をしていくことも必要と感じた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業目標は概ね達成されている。学生の自己評価も十分に高い。今後も地域 での実践を重ねることと、さらに他大学の学生との交流の機会を持ちながら 受講生の視野を広げていく内容にしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
スポーツ科学実技	1	通年	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であるとともに資格取得に必要であるため、幼稚園教諭免許、保育士資格のいずれかを希望する学生は全員受講している。対象の学年は1年生(通年)であり、今後資格を取得するために、自己の体力について把握することは大切である。また、授業だけではなく卒業後も生涯スポーツとして運動を続けてもらうために、さまざまな競技を行いルール理解や技術習得ができるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は91.3点(S-71、A-17、B-5、D-1、放棄-1、休学-1)である。ほとんどの学生がSまたはAを取得していることから、目標は達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「一般教育科目」における「自然科学系」に位置づけられており、卒業必修科目である。また、幼稚園教諭免許の必修科目でもある。受講学生は資格取得を考えているため、受講の意欲は高い。成績評価を見てもほとんどの学生において現段階での課題は達成されており、内容的には妥当であったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	体力測定を前期の4月と後期の1月に行うことにより、学生自身が1年間の体力の変化を把握できるようにした。また、さまざまな競技においてゲーム形式だけではなく、技術習得のための練習を取り入れ、学生がお互いに教え合うなどの姿が見られた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は達成されたと考えられる。バレーボールやバドミントン等の競技だけでなく、学生からの意見であったフットサルなどの競技もできるように、環境や道具を整備したい。また、安全管理のために今ある古い道具を新しくすることを検討したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングルⅡ	1	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	初級レベルの語学力をつけることがこの講義の目標であり、前期の「ハングル1」に引き続き受講する学生がほとんどであるため受講動機が「関心がある内容のため」が多いのも頷ける。 またこまめに小テストを実施することにより学生に学習状況を認識するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均成績は91.7であった。 到達度自己評価のほとんどの項目にわたり高評価を得ている。特に「2.知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.8であることから分かるように所定の成果を得られたと思われる。また本講義は外国語、つまり専攻と直接関わりのない内容を取り上げているが、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」でも4.7と高い評価を受けた。このことは、学生たちのこれからの発展を示唆するものであり、今後が楽しみである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみての内容の妥当性 シラバスで明記している通り授業が進み授業の質評価で高い評価を得られたことから、学生たちの満足度が高かったことが分かる。 ②DP、行動目標からみての内容の妥当性 保育学科は後期は保育園実習など多忙なスケジュールをこなさなければならない。そのスケジュールのでも負担にならない程度に教材を用いた予習・復習の誘導と小テストを施したことは学習量の評価が示している通りである。シラバスに明記した「積極的な姿勢での授業参加」ができたと言える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、ほとんどの項目において高い評価を得られていることから授業進行に問題がなかったと思われる。教材を用いる学習以外にも各自興味のある分野、例えばK-popやドラマ、動画視聴など好きな方法で学習を進めているので問題ないと思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。西南女学院大学における講義は2017年度まで担当することとなったが、満足いく結果を得ることができた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	In the second semester of this Oral English course, we used the textbook "Four Corners: Book 1", and the focus was on building students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2-3 weeks to complete the units. We spent more time on speaking activities to improve fluency. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students performed well. Each week the students were given a short comprehension quiz as well as making a short presentation on the subject matter related to the text. They also wrote sentences using new vocabulary presented in the lesson. Students made positive comments on the evaluation sheet forms.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Again I believe the course was fully able to accomplish the goal of DP1-1 as the students enjoyed working with each other and have begun to make more progress in making themselves understood in English. They have enjoyed singing English songs and learning about English speaking cultures.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	More pair work was used this semester and in the future even more would be good. These students are well motivated and attendance was excellent. According to their comments they enjoyed the class.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	The students seemed very interested in English and are motivated to learn. At first they were hesitant to try to use their limited English but after gaining their trust, the students seemed to open up and be more willing to try. In the second semester we hope to make even more progress.
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	植村 和彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
器楽アンサンブル	2	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	少人数制による演習という特性を生かし、出来る限り個別にコミュニケーションをとりつつも、受講者一人ひとりが主体的に演習や活動に参加できるような授業環境づくりに配慮した。学生の受講動機に関する回答では、③「関心のある内容である」(選択率80%)が最も多いことが示すように、音楽分野に関心のある学生が選択、受講していることは明白である。最終学期である2年次後期に配置された科目であり、受講学生が小グループでの音楽表現活動の中で主体的に取り組み、協調性を育みながら学べる環境づくりに配慮した。2年次前期までの音楽分野における学習を生かしながら、自ら課題設定してチームで計画的に取り組めるように授業計画を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価を見ると、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.0点、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.2点、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値が4.2点であったことから、技能表現 (DP5)に関わる目標については、やや達成されたと言えるのではないかと。また、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.2点であったことからみても、態度に関する目標についても、やや達成されたということが言えるのではないかと。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は2年次後期に配置された選択科目である。学生たちが音楽分野において2年次前期までに学んだ知識・技能を生かし、卒業後に保育や幼児教育の現場において音楽表現を実践するための実践的な学習機会の設定としても妥当であると考えられる。 ②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 到達度自己評価の項目(1)、および項目(4)～(8)において平均値が4.1点～4.2点であったことから、本科目の行動目標1～3においても、学生自らが概ね到達できたことの現れであり、内容的に妥当であったと言える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が4.2点であった。 また、図書館等の利用においては、当授業では行わなかったが、次年度以降、図書館等の利用についても検討し、促していきたい。 特に活動の記録ができていなかったことがあげられる。ただ、企画・実施するだけでなく、今後の参考ともなる記録の取り方について、今後検討する必要がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	最終学期での開講科目であることに配慮しつつ、学生個人が自らの関心のある専門分野について主体的に学びを深めることができるよう、一人ひとりの状況を注視しつつ、グループ活動において協調性やリーダーシップを養うことのできるような内容について、さらに検討を重ねていく必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育実習指導	1～2	四期	選択	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は幼稚園教諭免許状取得のために必要である「教育実習」と関連した科目であることを学生も理解している。そのため、免許状取得を目指す学生は全員受講している。授業内容は同実習関連科目である「保育実習指導」との関連も考慮した上で設定しており、入学時から全実習終了まで、さらには卒業後を意識したものとなっている。特に1年次は附属幼稚園での「見学実習」で観察の仕方、考察の仕方に触れ、後期は実際に観察を中心としながらも手あそびや絵本の読み聞かせなどの部分保育、保育者としての視点を持ちながらの子どもとの関わりが持てるようになることを目指していた。2年次は手作り教材の発表や短時間の指導計画を立てての実践、最終の実習では全日を実習生が担当する機会をなるべく持つなど、より保育者として責任を持った実習となるよう計画している。授業では、これらの実習で少しでも学生が自己を発揮できるように、発表の機会や指導計画の添削、報告会実施による他者との学びの共有など、学生の学習準備性に合わせた授業計画を立てている。 また、欠席した学生へは理由を考慮したうえで指導し、必ず全授業内容を補完するようにしている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は、平均点82点(最高点94点、最低点60点、A-12人、B-46人、C-22人、D-7人)である。実習園からの評価も概ね高い評価を受けており、実習を重ねる毎に学生の課題が克服されているようである。科目内での課題の提出や教材研究の実践を含めて教育目標は達成することができていると考えられる。 また、図書館利用やシラバスの活用も通常科目よりも多くなされており、学生が自ら学ぶ意欲や実習に向けて真摯に取り組む態度が育まれている。一方で、授業に向けての準備や事後の振り返りが必要な科目であったにもかかわらず、「0回」の学生が多いため、次年度以降の働きかけを考えていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	幼稚園教諭免許状取得のための必須科目であり、実習に必要な計画を立てているため、学生の受講意欲は高いと考えられる。また、DPを達成することができる様、他の科目との連携や学習の連続性を考慮しているため、内容的妥当性については問題ないと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	昨年度の課題であった学生自身が話し合ったり質問したりすることに関する項目は、今回授業の質評価の中では高い得点となっており、改善できたのではないかと考えられる。しかしながら全ての項目について「少しそうでないと思う」と感じている学生も少数ではあるが存在していることから、学生の様子を把握し改善につなげたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業への取り組み状況及び評価結果を見ると、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。今後も他の関連する実習との整合性や授業の進捗状況による学生の準備性を意識した授業を展開して行けるように取り組んでいきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅保育	2	後期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、今年度から開講する新しい科目で、「認定ベビーシッター」資格の必修科目に位置付けられています。そのため、学生達の動機も「資格取得に必要である」と回答している学生がほとんどであるが「関心のある内容である」との回答も多く、本科目に向けられた関心を垣間見ることができました。この関心に対して満足いく内容にするため、学生達の反応を見ながら授業内容を試行錯誤してきました。本科目は、現在現役で保育園において主任保育士をしている非常勤講師の先生と一緒にを行い、実践的なことを中心におこないました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの「到達度自己評価」は、全項目4.0～4.1であり、比較的高い評価を得たと思っています。訪問型保育についての基本的な知識は小テストを実施することで学生達の修得度を測りました。小テストは、返却し、次に生かせるようにしています。その結果、2回目の小テストは平均点もあり、最低限の知識は網羅されたと思っています。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、認定ベビーシッターのための科目であり、通常の保育所保育とは異なる要素をたくさん含んでいます。また、本領域は保育所保育の応用的位置づけであると認識しています。そのため、今までの科目が修得されてこそ本科目の内容が理解できるため、DP、CP、特にカリキュラムマップの位置づけには内容的妥当性があると評価しています。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、新たな知識の修得が必要であるが、実際の場面においては、家庭訪問で保育士1人が実践していかなければならないため、高い技術も求められます。また、対象が「こども」だけでなく、産後ケアとして母親への援助も内容として入ってくるため、あそびのスキルだけでなく、家事支援や育児支援にも言及した内容を行いました。内容的に大人数では十分なレベルまで教えられないため、クラスを二つに分け、非常勤講師と手分けして十分な時間を手間をかけて演習を展開しました。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度は手探りの状況で授業を展開しました。学生達の得手不得手も感覚的に掴みましたので、次年度は、より効率的に授業を展開していき、家庭訪問ができるレベルまでに仕上げていきたいと思っています。また、共に担当する教員が変わるため、教員の得意分野も生かした教授内容を取り入れていけたらよいな、と思っています。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会的養護内容	2	後期	選択	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は保育士資格取得のための必修科目であることから、資格取得を目指す全ての学生が受講している。授業実施にあたっては、社会的養護の担い手である保育士に求められる基本的な知識の獲得を目指すとともに、具体的な事例を用いた個人ワークやグループディスカッションを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価としてS-33名、A-35名、B-12名、C-9名であり、S、A評価を取得した学生が全体の約76%以上であることから、目標はやや達成されたと考える。また再試対象者は0名であった。他方、学生による評価をみると、「学習達成度の自己評価」「授業の質的評価」の全項目に対して、全ての学生が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育の内容、方法に関する科目」に位置づけられている。資格取得のための必修科目であることを学生も理解しているため、受講に対する意欲は比較的に高い。 DPでは、学生による授業評価の知識理解の観点、技能表現の観点での自己評価について、回答者全てが「まあまあそうだと思う」以上の評価をしている。また、毎回の授業終了後に各自のワークシート、グループワークシート等の確認を行ったが、回を重ねることに考察に深まりがみられた。 以上のことから、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度は、昨年度得た課題をふまえ、事例内容や事例検討方法等の改善を行った。その結果、授業評価アンケートの授業に対する学生参加度を示す項目において「まあまあと思う」以上の解答をしており、そのうち約62%から「わりにと思う」以上の回答を得ることができた。次年度も、授業の質の向上に向け、教材や授業展開の方法等の改善を図っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の取り組み状況や評価結果から、本科目の学習目標はやや達成できたと考える。また今年度も授業理解の促進を目的として、事例内容や検討方法について改善に取り組んだ。その結果、学生から「分かりやすかった」「楽しかった」等の肯定的な評価を得ることができた。今後も受講生全体の学習理解度を高めていくことができるような方策を含め、授業の質の向上へ向けた取り組みを行っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉	1	後期	選択	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必修科目であることから、資格取得を目指す全ての学生が受講している。授業の実施に当たっては、社会福祉がわれわれの生活に密接にかかわるものであることの理解を促すとともに、福祉の専門職である保育士に求められる知識の獲得に向けて、適宜、具体的な事例を用い、現場実践に引き付けて学びを得ることができるよう心掛けた。また授業開始時に小テストを実施し、予習、復習に対する意欲の向上と学習状況の把握につとめた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績評価としてSー25名、Aー23名、Bー17名、Cー20名であり、S、A評価を取得した学生が全体の約50%であった。また再試験対象者は8名であった。他方、学生による授業評価をみると、「学習達成度の自己評価」では、概ね「まあまあそうだと思う」以上の評価である。しかし、いくつかの項目で1～5名の学生が「少しそうでないと思う」と評価している。標準的レベルに達しなかった学生や達成度の自己評価において課題を残した点から鑑みて、達成の有無についてはやや達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「専門科目」における「保育の本質・目的に関する科目」に位置づけられるもので、福祉系科目の基礎となる科目の一つである。資格取得のための必修科目であることを学生も理解しているため、受講に対する意欲は比較的に高い。DPでは、学生による授業評価の知識理解の観点での自己評価について、約99%の回答者が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしている。以上のことから内容的妥当性に問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度も学生が質問しやすい学習環境づくりの一環として、リアクションペーパーの活用や授業時間内に質問の時間を設けるなどの取り組みを行った。その結果、授業評価アンケートの質問しやすい環境か否かの項目において、回答者の約94%から「まあまあそうだと思う」以上の解答を得ることができた。他方、授業理解を促すため、配布資料の内容を見直したり、図表などを多く用いるなどの改善を図った。その結果、説明は分かりやすいか否かの項目において、「まあまあそうだと思う」以上の回答が約99%であった。今後もさらなる授業改善に向け、継続的に取り組んでいきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の取り組み状況や評価結果から、本科目の学習目標はやや達成できたと考える。 今年度は、授業理解の促進に向け、情報提示や説明の方法などの改善を図った。今後も授業の質向上に向けて、継続的な取り組みを行っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目ではあるが、保育士資格を目指すものにとって日本国憲法は必修である。しかし、保育士を目指すものにとっては一見関連性がなく、学生たちにもイメージしにくい科目である。そこで、日々の生活と憲法が随所で関係していることを説明してイメージをしやすくさせた。さらに国民が当たり前にあると認識している人権が、憲法が保障しているからこそ可能なものであることを重点的に解説した。 ②難解な専門用語や理論考察が必要なため、毎回配るレジュメの最後に必ず本日の講義のポイントとなる部分をまとめた問題を入れ、学生に解かせることで知識理解を定着させるようにした。さらに今回は翌週の授業始めには前回の講義のまとめ問題を実施し、さらなる理解と定着を目指した。 ③後半の講義で解説した、「首相公選制」「裁判員制度」「死刑制度」についてそれぞれの制度について賛成か反対か、その理由も含めて学生たちに自分の意見を書かせた。さらに同様の問題を期末試験にも盛り込み、学生たちが講義で学んだ事柄について自身の考えを理論的に書いているかどうかを評価した。 ④映像授業として裁判員制度についての広報映画を見せ、学生たちも将来参加する可能性のある裁判員制度への理解とその重要性を認識させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	知識理解については、成績の平均値がABクラス、CDクラスともに80点代後半であった。これは知識理解到達の理想として80点中盤として試験を作成したこちらの想定を上回るものであった。特に成績不良で単位を落とした学生が全くなかったことは非常に喜ばしいことであった。学生の到達度自己評価に関するアンケートでもほとんどの学生が肯定的評価をしており、知識理解の面からは目標は十分達成されたといえる。 意欲関心については、前年度の課題だった「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目の平均値が3.6であり、前年度の平均値3.3から改善される結果が得られた。その一方でコミュニケーションや表現力、授業中の話し合いについては、まだ不満な回答がみられる。今年度からはこの項目の満足度をあげるため、授業スケジュールの後半に講義で取り上げた論点について話し合うグループワークを行う予定である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、一般教育科目の一つであり、DP1に関わるものである。本学の保育科の教育目的の一つが豊かな教養と専門知識をもった保育の専門家の育成であるが、本科目はその教育目的からみても内容的には妥当性であると考ええる。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 知識理解に関する達成度は、成績評価および到達度自己評価の平均値をみても達成されたといえる。意欲関心についても、本科目が学生にとっては難解ではじめて勉強する科目でもあったにも関わらずアンケートからは肯定的な評価を得られたため、妥当であるといえる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「テストなどの評価基準が明らかだった」「期間内に行うべき学習の範囲は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の項目についての回答がほぼ全員肯定評価であった。これは前年度に引き続き毎回の講義のはじめとさいごに授業のまとめを行ったことが効果的であったためと考えられる。一方で「何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会がつけられていた」という項目については一部否定的回答がみられた。この部分についての対策としては、授業後に質問票を提出させ、翌週の授業でその質問に答えるという形式の導入を試みたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績評価および授業評価の平均値が前年度よりも大幅に上がったことは、学生の知識形成の達成というだけでなく授業の質を上げるという課題の面でも非常に実りのあるものであった。特にスケジュールの後半に行った様々な制度について学生の意見や考えを書かせる問題は、彼らに考えさせる力を深めさせるという点で効果的であった。一方で、アクティブラーニングの面はまだ不十分な点があるため、今年度からは模擬裁判の映像を使ってグループワークを行なっていく予定である。これにより学生たちが少しでも一つの論点について話し合いができるような機会を設けていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	北野 久美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳児保育 I	1	後期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1:前期で基礎的な学習はしているものの、資格取得に必須の項目であることをより理解が深まるように、現場で実際に保育している様子等場面ごとに写真を撮る等心掛けた 2:現場力を生かし、即戦力がつくような手立てを多く取り入れた→ビデオや写真を多用しその場での様子の読み取りや言葉のかけ方、手立てについて考える時間を設けた。 3:取り立てて小テストは行わず、数人での話し合いや他の人の意見や考え方を聞く時間を設けた
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	出席率も高く、授業態度もよい。学生の授業評価を見ても課題が明らかであったとの回答が多く、説明もわかりやすかったとの評価を受けている。しかし一方でアクティブラーニングを取り入れていたものの、意見の発表等の機会に関して、12%が少しそうでないという回答があり達成には至らないと判断した					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1:知識理解 資格取得のための必須であり、実践への理論構築のために教科書での育ちのプロセスについて重点を置いての指導となった。2年次の現場に通じる応用編の前段階の基礎知識としての役割は果たしている DP2思考判断 成績評価では高得点ではあるが、実感としての自己評価が平均値を若干下回っているという事で、思考としての感覚が伝わりにくいことが分かった。しかし、試験での記述や授業中の発言等、思考しての表現であったことで、内容は妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	2年次前期とトータルしての授業の進め方であったため、まずは基礎基本を心掛けたものの、現場に活かせるような取り組み（ビデオカンファ、ポートフォリオ等の取 入れ）は実施してきた。実習に際しての最低限のマナーやすぐに生かせる手遊び等、子どもと対面して迷わないための手立ては取ってきたのだが表現力を高めるこ とはできた、職業選択の参考になったという項目の数値により、進め方はおおむね間違っていなかったと考えている
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	資格取得のための必須授業であることと共に、現場に出た時の戸惑いが軽減するようにと、現場力を生かしての講義組み立てであったが、通年のプログラムを単発 の形で組立て直しには若干の時間を要した。しかし、授業態度はとても前向きであり、学びを深めようとする意欲は感じられたので、この思いのまま2年次に望ん でほしい（と願うばかりである）
------------------------------	--

学科	保育科
氏名	村上 里絵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育・教育課程論	1	後期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	出来る限り保育現場の具体的事例を挙げて、「保育課程・教育課程」をイメージし、指導計画に繋げる関心を持てるように講義してきた。今回の受講動機を見ると「必須科目である」が、70.9%で、「資格取得に必要である」が58.2%と、学生の保育理論を学びたいという動機よりも、「資格を取得するため」の気持ちが強いことがうかがえる。資格取得に必要な保育理論と実際に保育現場で目の当たりにする子どもたちの姿、保育の計画の必要性とが結びつくことが出来るように、「保育課程」「教育課程」と「指導計画」の関係が分かるような授業の工夫をしたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的なミニテストにおいては、全員が標準的レベルに達したが、成績には出席点と授業貢献度点がそれぞれ含まれている。次年度は、自主的に考えられるようにグループワークなどを通して、主体的に学ぶことが出来るような授業及び宿題などの課題提示に一層の工夫を努力をしたいと思う。今年度の目標達成については、全体的にやや達成されたと評価している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学習量の評価で、学習量が低かった理由として「授業中の説明が分かりやすかったため。」「十分だと思ったから」の理由が記載されている一方、「どこをしたらよいかわからなかった。」「何をすればよいかわからない」の意見がある。その都度、具体的に課題や宿題を提示することの必要性を実感している。また、意欲に刺激を与え、態度に表れるような授業の工夫を試みたいと思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	「教科書中心の授業が面白くなかった」の意見に対して、「保育・教育課程」の授業の性格上、理論で説明していく必要があるため、教科書を中心にしながら、保育 現場での具体的事例をもとに講義を展開するようにしてきた。が、一部の学生にとっては退屈になってしまっていることがうかがえる。来年度は、このような意見も参 考に、理論だけの講義を進めるだけでなく、アクティブラーニングができる時間の確保を考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年度の課題としての「学生の学習量増加」と、「保育理論理解向上」への手立てとして、教科書中心の講義だけではなく、実際に調べたり、読んだり、経験したりし たことを課題にしたり、グループワークの一環として「共同的に指導計画を作成する」などの授業工夫を試みたい。
------------------------------	--

学科	保育科
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育・教職実践演習(幼稚園)	2	後期	選択	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は免許・資格取得における必須科目であり、在学時における実習を全て、また保育に関する学びの大半を終了した学生たちが受講している。本科目に至るまでに学生が経験してきた学びを活かし他の学生と共有できる講座、学生にも親しみのある卒業1年未満の卒業生を招いて新任の保育者としての心がまえを伝える講座など、実際にロールプレイを行ったり人との協働の大切さを感じられるように構成している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は平均点79点(最高点98点、最低点40点、A-13名、B-42名、C-22名、D-6名、E-7名)である。学生により評価にばらつきがみられるものの、半数以上の学生はAまたはBの評価であり、全体としては目標の達成に近づけたと考えられる。 また、学習量や図書館・情報の利用も通常の講義と比較すると行っている学生は多く、自ら授業に向けて積極的に取り組んでいるようである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は免許・資格取得における必須科目であり、学生は主体的に学ぶ姿勢ができています。講座の中では授業や実習の中で獲得してきた知識や技能を十分に発揮するために事前準備や振り返りをしっかりと行っている学生も多い。その結果「学習到達度の自己評価」も概ね「まあまあそうだと思う」以上を選択されている。 以上のことより、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業はオムニバス形式でそれぞれ専門の教員が担当している。模擬保育では各クラス毎に担当教員が異なるが、事前に入念な打ち合わせを行うことはもちろん、授業実施の都度主担当との打ち合わせを行うことで全クラスの評価が統一されるよう配慮している。また、保育相談のロールプレイでは、複数担当とすることで学生たちに授業の意図が伝わりやすいようにしている。 しかしながら、グループワークでは一部の学生のみ負担が偏る場面も見られたため、今後、きちんと状況を把握しながら指導する必要がうかがえる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価及び授業への取り組み状況からは、概ね本科目の目標は達成できたと考えられる。今後もより学生が関心を持つとともに保育者としての課題を見出し解決していけるような授業を展開していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の心理学Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は免許・資格の取得に必要な科目であるため、幼稚園教諭免許、保育士資格いずれかの取得を望む学生が受講している。 「保育の心理学Ⅰ」(前期)で学修した子どもの発達を踏まえた上で、より実践に即した保育者の援助の仕方について学べるよう配慮している。受講初期は夏期の保育所での自主実習での体験から予測できる事例検討を行い、後期に行われる「教育実習Ⅰ」(幼稚園5日間)を体験した後は、卒業生から出された事例や日誌を基に受講生から出された事例を個別及びグループワークを行いながら検討している。各事例には複数の対応が発表されるが、最後に教員による全体的考察を食わることにより、多様な対応についての保育者の援助の意義について意味づけを行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は平均76点(最高点97点、最低点47点、A-10人、B-29人、C-37人、D-12人、E-6人)である。例年と比較するとC評価が多いため、学生の理解をさらに深められるようにしたい。授業評価では「到達度自己評価」における「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が最も高い平均点となっている他、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」や「職業選択の参考になった」と続いていることより、本科目の教育目標がやや達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門科目」における「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられており、幼稚園教諭免許(必修)、保育士資格(選択)の科目である。受講生は両資格またはいずれかの免許・資格の取得を希望する目的があるため、受講の意欲は比較的高く、積極的に授業に臨む姿が見られる。 また、自由記述欄より本科目での学びを実践の場で活かしている学生が複数みられ、まだ未熟ではあるが保育者としての視点の持ち方、援助の仕方などを試行錯誤している様子がうかがえる。 以上の事より、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	演習科目であるため、学生が積極的に考え、話し合い、まとめ、発表する機会を多く設けるように心掛けた。しかしながら、多くの学生が1回以上は全体に意見を述べているものの、数名は全体での発表に抵抗を感じている学生がいる。また、昨年度と同様に授業内の全体的考察などを「全く記述していない」学生が1割程度見られている。再度工夫を重ね、次年度も学生が質問しやすい(発言しやすい)授業展開の方法や時間設定、ポイントを絞った説明などを心掛けるよう改善していきたい。 また、本科目は2クラスに分けて行っているがクラスによる平均点にあまり差は見られない。今後もクラスの特性に合わせた授業展開を行っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業への取り組み状況及び評価結果を見ると、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。上記の課題を意識しながら、今後も学生の経験に即した授業を展開することができるよう心掛けたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	末 崙 雅美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育メディア演習	2	後期	選択	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①資格取得に必要な科目であるため、受講動機はほとんどが「必修」「資格に必要」と答えている。 ②もう一人の担当者と明確に分担した。メディアと子どもの育ち、保育や育児に関わるメディア環境の影響など、子どもの育ちから見たメディアと保育者としての関わりの方について学ぶような内容にした。 ③演習科目であるため、アクティブラーニングを意識し、ディベートや発表などを取り入れた。学生自身が置かれているメディア環境（スマホ依存など）や自分自身の経験を活かすようなテーマ設定を行った。その結果、「ディベートが思ったより楽しかった。授業を機に、みんなと保育にメディアはいるのかを考えられて良かった」との自由記述意見があった。「保育にメディアは必要なのか」という根源的な問いに、授業を通して学生が出会えたことになが非常に良かったと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均値は72.3、秀及び優は20名、再試験該当者は2名だった。再試験は、2名とも別担当者のレポートが未提出だったためである。平均点やレポートの内容から、DP1の知識理解は「やや達成された」と評価できる。 また、授業内小レポートを8回中4回課し、それらの小レポートやディベートや発表の内容から「保育に必要なかどうかを含めて、自分なりに、メディアとの付き合い方を考えていく態度」が養われたことがうかがえるため、DP4の態度に関しては「達成された」と評価できる。 ただし、学生の自発的な学習に関しては、授業の課題以外の学習に73%が「していない」と回答するなど、自発的な学習につながっていないことがうかがえる。ただし、小レポート、期末レポートとも下調べが必要な課題であったため「レポートかくため、いろいろしらべた」と記述した学生がおり、課題設定により自分なりに学習を深められる姿がうかがえる。 以上の結果から、全体を通して「やや達成された」と評価したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はCPにおいて「専門教育科目」の「保育の内容・方法に関する科目」に位置付く科目の一つである。保育の方法に関わる内容であり、様々な保育の方法があることを知り、卒業を控えた学生たちが今後どのような方法をとるべきかを熟考する内容であるため、妥当であるとする。 DP1に関して、今後、子どもとメディアを巡る環境はますます変わっていくものと考えられる。卒業後も継続的に関心を持ち、常に問うていける姿勢を持ち続けるためには「思考判断」や「意欲関心」を高められる内容も盛り込んでいく必要があると思われる。今回の授業内容では、DPの位置づけは妥当であったが、これからの授業展開として課題としていきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ディベートや発表の機会を持ったにもかかわらず「学生が参加する機会が作られていた」が3.6に留まった。全員参加型での授業形式にも関わらず、この結果だったのは学生の参加意識の差があったのかと推察する。参加意識を高めるような働きかけや工夫などの改善を試みたい。また、日常的にメディア環境と子どもの育ちの問題に関心を高められるような内容、できるだけ新しい情報に即した内容に基づいて授業内容を組み立てていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	自分なりに保育とメディア環境との関わりを考えられる態度が培われ、メディアの問題を分析できる視点を持てたことについて、授業のねらいとしていたことが達成できた部分については良かったと考える。一方で、参加型の学習にもかかわらず、「参加した」と実感できない学生がいることに関して、参加意識を高められるような工夫を今後は行っていきたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	末 崙 雅 美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育原理	1	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①卒業必修科目であり、資格に必要な科目のため、全員履修した。 ②保育に関する基本的な理念や概念の整理などを行う授業であること、特に基礎となる知識習得を重点的に学ぶよう開講時に説明を行った。試験についても持込を行わないことなど方法に関しても詳しく説明をしている。 ③授業の進行には、ノートプリントを用いた。穴埋め形式のため、キーワードとなる言葉や概念の整理と共に、どのような学習の経過を辿ったか分かるように工夫をしている。自分の考えやアイデアを記述する欄も設け、それに基づいて意見発表ができるようにしていたが、部分的な場面に留まり、全体的に意見をまとめるような工夫が必要であると感じている。 ④こちらが配布するプリント以外に、自発的にノートをまとめる学生もいた。参考書籍等も適宜紹介を行った。しかし多くの学生(74%)が課題以外の自発的な学習に取り組んでいないことが分かった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均値は70.9、再試対象者が14名、秀および優は25名(26%)であった。再試験では受験者全員が合格し、全員が一定の知識理解はできたと判断する。一方で、予習復習をしなかった学生が68%、課題以外の学習に取り組まなかった学生が74%おり、その理由として、自由記述で「授業内容でいっぱいだった」「時間が無い」という学生と、「授業中で理解していた」「する必要がない」と答えた学生といた。意欲はあっても自主学習に結びついていない学生もあり、DP3に関しては、意欲や関心を十分に引き出せたとは言えない結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPからみた内容的妥当性について、本科目は「専門教育科目」の「保育の品質・目的に関する科目」の一つで、必修化されている。内容的には妥当であるが、実習に行く前に身につけるべき知識等もあり基礎的内容を主に行うことから考えても、一年生前期に位置づけることが望ましいと考えられる。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性について、最終成績が70.9点で再試受験者も全員合格したことから一定の知識の獲得と保育に対する理解は得られたと考える。ただし、上述したように意欲関心を十分に引き出せていないため、今後何らかの工夫が必要だと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らかであった」という項目に「そうでないと思う」と答えた学生が2名いた。開講時にシラバスを確認し、評価基準については説明をしていたが十分理解されていなかったとらえ、今後は授業進行時にも重ねて説明を行いたい。 また「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」については平均3.5、「そうでない」「少しそうでない」を合わせて7名の学生が答えており、参加型の学習ができるよう検討したいと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	原理系科目であり、学生にとっては堅苦しい内容が多く、取り付きにくいイメージもあったのではないかと考える。知識獲得が重点目標だったため、こちらからの説明がどうしても多くなり、その結果、自発的な学習がなされていないことを考えると、「授業に参加しながら知識を習得する」方法を導入したい。 また、学生が学習の達成感を味わえるよう、その都度学習の積み重ねの振り返りができるよう工夫したいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅰ	1	通年	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育所実習Ⅰ、施設実習Ⅰを対象とした実習指導であり、1年生の通年科目である。実習に向けての事前事後指導および、保育職の多様さ、他職種との協働を含めた保育現場への心構えの育成が授業の重点課題である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	多くの学生到達度の自己評価が高く、受講態度もまじめに取り組んでいた。実習先からの評価も十分であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	実習指導は、さまざまな科目により得られた知識と技術を実習で総合的に実践できるように支援するという位置づけであり、すべてのDPに関連する総合的な科目である。そのため、生活全般にわたるような自己課題の設定と振り返りなど、学生自身を見つめ直す機会となるような内容になっている。また、卒業後の進路とも直結する内容であった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	複数の教員が担当している科目であり、教員間の連携が重要となる。また、他の実習指導担当者との連携を図る必要があり、授業外での打ち合わせの時間を確保した。受講生に対しては、実習の重要性やそれに伴う実習指導の重要性を繰り返し伝えて、受講態度の改善を図る工夫をした。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学外での実習を無事に終え、それぞれの園・施設からの評価も概ね良好であり、実習指導としての目的は概ね達成できていると考えている。また、実習終了後の振り返りで、学生の学びを深めることもできていると考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅱ	2	通年	選択	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育所実習Ⅱのための実習指導であり、通年で事前指導と事後指導が実施される。実習に出るための事前指導も重要であるが、受講学生は2年生であり、事後指導で実習での体験を振り返り、卒業後の実践につなげることに重点を置いた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	多くの学生到達度の自己評価が高く、受講態度もまじめに取り組んでいた。実習先からの評価も十分であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	実習指導は、さまざまな科目により得られた知識と技術を実習で総合的に実践できるように支援するという位置づけであり、すべてのDPに関連する総合的な科目である。そのため、生活全般にわたるような自己課題の設定と振り返りなど、学生自身を見つめ直す機会となるような内容になっている。また、卒業後の進路とも直結する内容であった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	複数の教員が担当している科目であり、教員間の連携が重要となる。また、他の実習指導担当者との連携を図る必要があり、授業外での打ち合わせの時間を確保した。受講生に対しては、実習の重要性やそれに伴う実習指導の重要性を繰り返し伝えて、受講態度の改善を図る工夫をした。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学外での実習を無事に終え、それぞれの園からの評価も概ね良好であり、実習指導としての目的は概ね達成できていると考えている。また、実習終了後の振り返りで、学生の学びを深めることもできていると考える。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅲ	2	通年	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	施設実習Ⅱのための実習指導であり、通年で事前指導と事後指導が実施される。実習に出るための事前指導も重要であるが、受講学生は2年生であり、事後指導で実習での体験を振り返り、卒業後の実践につなげることに重点を置いた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	多くの学生到達度の自己評価が高く、受講態度もまじめに取り組んでいた。実習先からの評価も十分であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	実習指導は、さまざまな科目により得られた知識と技術を実習で総合的に実践できるように支援するという位置づけであり、すべてのDPに関連する総合的な科目である。そのため、生活全般にわたるような自己課題の設定と振り返りなど、学生自身を見つめ直す機会となるような内容になっている。また、卒業後の進路とも直結する内容であった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	複数の教員が担当している科目であり、教員間の連携が重要となる。また、他の実習指導担当者との連携を図る必要があり、授業外での打ち合わせの時間を確保した。受講生に対しては、実習の重要性やそれに伴う実習指導の重要性を繰り返し伝えて、受講態度の改善を図る工夫をした。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学外での実習を無事に終え、それぞれの施設からの評価も概ね良好であり、実習指導としての目的は概ね達成できていると考えている。また、実習終了後の振り返りで、学生の学びを深めることもできていると考える。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育相談支援	2	後期	選択	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は、ほとんどが免許・資格に必修科目であるためであり、科目へのモチベーションというよりは、保育職へのモチベーションを持って受講していると考えられる。そのため、保育現場での実践を意識した授業内容としている。現場で多く出会うような事例を準備し、それについて考える時間をできるだけ多く取るようにしている。ただし、臨床心理学や対人コミュニケーション、メンタルヘルスについての基本的な知識を伝えることと並行して実施しており知識と実践のバランスに注意しながら授業の計画を立てた。また、現場で様々な事例に対応するために、個別の方法やマニュアルではなく、基本的な考え方や視点の持ち方についての理解が深まるよう留意した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	多くの学生が、トータルの成績評価で80点を超過しており、教育目標はおおむね達成されていると考えられる。また、アンケートの達成度自己評価の各項目に「わりにそう思う」「かなりそう思う」と回答している学生の割合も高く、その点からも、教育目標がおおむね達成されていると考えた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目に関するDPの項目である意欲関心に対応するアンケートの自己評価項目は、「(6)学びを深めたいと意欲を持つことができた」であるが、その項目に「わりにそう思う」「かなりそう思う」と回答した学生は半数を超えていた。また、DPの技能表現に対応する項目である「(7)技術を身につけることができた」、「(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた」にも半数以上の学生が「わりにそう思う」「かなりそう思う」と回答しており、学生が授業を受けた手ごたえとして感じていることと授業の目標が一致していることがうかがえる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方、評価基準などについて、昨年度の授業評価を参考に、15回の授業の中で、繰り返し伝えるようにしたところ、今年度は、昨年度よりも学生に伝わっているようであった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教育目標は、おおむね達成している。学生の自己評価も高く、授業目標や教員の意図が良く伝わっているように思う。今後も学生とのコミュニケーションを図りながら授業を進めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育総合表現	2	後期	選択	はい	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育科2年生全員による「こどものためのミュージカル」を北九州芸術劇場中劇場で上演することを最終ゴールとし、 ①学生が主体的に演習できるよう、環境づくりを整えた。 ②選択必修であり、保育士資格を取得予定の多くの学生が受講するため、クラスの垣根を超えて、学年全員が役割を全うできるよう、学年全体でひとつの作品に取り組む試みをおこなった。 ③教員が主導するのではなく、学生の中に監督、助監督を置き、学生が中心で進行できるよう、援助した。 ④担当教員4名間のコミュニケーションを重視し、それぞれの専門分野を担当しつつも、相互の連絡を密にとった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度の自己評価①自分なりの目標を達成した(4.4)、②知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(4.3)、からもわかるように、全体をとおして、教育目標はやや達成されたと言える。また、⑦専門分野で必要となる技術をみに付ける事ができた(4.4)、⑧コミュニケーション力や表現力を高めることができた(4.4)、からわかるように、技能表現においても、教育目標はやや達成されたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学科の集大成としての表現活動という位置づけのため、音楽、身体、造形それぞれを統合した表現を体得できることを目標としていることから、通年として、チームワーク力やコミュニケーション力を養うために、自らの資質を知り、表現の媒体を選択できるよう配慮した。みずからの資質を共同作業において、生かして行くことができたことから、内容的には妥当と考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の結果(平均4.2)からみて、おおむね進め方については、評価されていると言えるが、担当の部署ごとに意識のばらつきがみられた。今後は、監督への負担が過剰にならないよう、また、部署ごとのリーダーシップを円滑に進めることができるよう、教員のよりきめ細やかな関わりが必要であると考えられる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	後期に週2コマ集中型の授業となったため、短期間の中で2グループにわかれ、集中して作品を創る活動を行なった。北九州芸術劇場を会場中劇場という会場の形態にあわせた形での作品づくりが求められた。学年をランダムに2グループに分けたことで初めは学生から苦情があったが、進めていくうちに、話したこともない学生との出会いやチームワークが生まれ、結果としては大変よいコミュニケーションを図ることができた。2グループがそれぞれの作品を仕上げる中で、お互いのグループを意識しながら行なったことも共に向上心を失うことなく進められたのでよい点であった。 今年度も、造形担当の教員が確保できなかったが、来年度は造形部門での非常勤講師が加わる予定であり、造形面での強化に期待したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	末 崙 雅 美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容「環境」	1	後期	選択	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①資格必修科目のため、受講動機にはそれが反映されている。 ②演習科目であるため、実技とグループワークを積極的に取り入れた。また外部講師を招き、「環境」への理解が深まるような内容も盛り込んだ。実技にあたっては、事前の準備の必要性も説明しており、また振り返り学習をその都度行うようにした。 ③単元毎にプリント課題を課し、学習の振り返りとまとめができるように工夫した。プリントやレポートについては評価の対象となることを説明し、✓切を守って提出するように促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績 (トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績は66.3点、秀および優は18名、再試験該当者は15名であった。再試験では、手続きミスから不合格になった者もいたが、課された課題は全員が合格のレベルに達している。そのため、DP1の知識理解については「やや達成された」と捉えてよいと考える。ただし、期末レポートに関しては、テーマを早めに示していたにもかかわらず、十分に時間をかけて作成されたとは言えないものも少なくなかった。 授業内で課していた小レポートに関しては、単元毎に振り返りができるよう作成していたため、その都度の振り返りに関してはできていたと思われる。この小レポートに関してはDP3の意欲関心につながるよう設定していた。この授業を通して、「理想としている保育の姿を深く知ることができて本当に嬉しかったです」と、自然環境を重視した保育への関心が高まった学生が一部いたが、多くの学生にとっては十分に関心や意欲を引き出すことができていないと考え「どちらともいえない」ととらえる。 実技やグループワークを行い、DP5の技能表現を達成するよう設定していた。実技は、振り返りレポートから察するにおおむね好評であり、楽しみながら学ぶことができていたと思われ、「やや達成された」と評価できる。 以上、3つのDPの達成度から鑑みると全体を通しては「やや達成された」と評価したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPでは「専門教育科目」の「保育の内容・方法に関する科目」に位置付いている。保育の5領域に関する内容を扱う科目であり、内容的に妥当であると考え。 DPでは「知識理解」「関心意欲」「技能表現」を問うように設定している。上述したように、「関心意欲」を十分に引き出すことができていないため、改善が必要であると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方について、教室に限らず、屋外環境なども用いて授業を行ったりした。面倒がる学生も少なくなかったが、実技の授業は結果としては学生が楽しみながら学ぶことができ、環境遊びの技能向上につながったと考える。ただし、後期は秋～冬にかけて授業期間であるため、屋外での実技は季候の良い開講直後の時期にならざるを得ない。準備学習よりも振り返りの学習に重点を置きたいと考える。 自由記述で「課題が多い」という意見があった。授業全体を通した課題の量はそれほど多くはないが、アンケートを実施した時期が期末レポートの時期だったため、作成に十分に時間をかけられていないことから考えても、課題の提示の時期をずらすなど工夫をしたいと思う。 また、評価基準に関しても、明らかでなかったととらえる学生がいたため、学期の中途などでも説明を適宜行っていきたい。 グループワークや実技などを複数回取り入れているが、「学生が参加する機会が作られていた」が3.5とそれほど高くない結果になっている。実技やグループワークの参加意識付けを行っていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	保育の5領域に関わる内容であり、より具体的に体験的に学ぶ授業だと考えている。実技や授業への積極的な参加を通して意欲を高めることができるのでは、と考えていたが、思ったほど参加意識が高まっていないという結果が授業評価から分かった。学生が、この授業を通してなにを自己課題にすべきか、また自分にどんな学びが必要かを考え、参加意識が高まるような工夫が今後必要だと思われる。 一方、少数ではあるが「理想とする保育」を、この授業を通して発見できた学生がいたことは、目指したい保育の姿が伝わっていたということでもある。保育のとらえ方について様々な視点を持ち、日常的に保育環境への関心を持てるような教材の提供をしなければならないと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	保育科
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床心理学(カウンセリング含む)	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であることから、授業の詳細は学生のニーズに対応して組み立てられるよう柔軟に対応した。また、活動を多く取り入れ、学生が体験的に学べるように配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価の平均は87点と高い。これは、授業中に学んだことのまとめや、体験したこと振り返り、あるいは自分についての心理テストを用いた総合所見のレポートにより評価されている。いずれも、実践したことを内省し、考察する課題である。これらの課題に積極的に取り組み、十分な内容であったためにいずれの学生にも高い評価をしている。以上のことから、それぞれの学生は、目標を達成しているものとする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、保育の対象理解に関する科目であり、保育者として現場で適正に考え、判断するための知識と応用力を培う科目である。学生の達成度評価でも「的確に判断する力を得ることができた」に対して回答の平均値が高く、内容的妥当性があるものとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	2年生の後期は卒業後の現場での実戦に向けて、短大での学びの集大成の時期である。そのことに配慮して、選択科目である本科目は、できるだけ授業時間内での活動と課題への取り組みを充実させるように工夫した。また、授業内容について感想を述べ合うことも理解を深めるために必要な復習であることを学生に説明し、積極的に行うように促した。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	カリキュラムないでの位置づけに対して、概ね妥当な内容で実施できていると評価している。また、学生の達成状況も十分であると考えている。
------------------------------	--